

インドネシア共和国

貧困プロフィール

2012年3月

独立行政法人 国際協力機構（JICA）

当資料は政府・国際機関の報告書・統計・資料からの抜粋を邦訳し、執務参考資料として取り纏めたものであり、JICAの見解を示すものではありません。転載・引用に際しては、直接、出典元から行い、当資料からの転載・引用は行わないでください。

基盤
JR
12-126

目次

I. インドネシアの貧困状況と概観	1
II. インドネシアの貧困削減のための政策枠組み	3
III. 所得貧困による分析	14
1. 貧困線とデータ	14
2. 貧困の状況—貧困率の分析	16
3. 貧困ギャップ率の分析	19
4. 格差の分析—ジニ係数・所得階層の分析	20
IV. 所得貧困以外による分析	23
1. HDIによる経年変化の分析と地域比較	23
2. MDG 指標の分析	24
3. 食糧安全保障・脆弱性による分析	27
V. 社会的特性と貧困との関連の分析	30
1. 社会的属性・特性による特長	30
2. 社会的に排除されているグループの存在と貧困指標との関係	34
VI. 貧困に影響を与えている国内外の要因	35
1. 天災、気候変動	35
2. 人口・労働の側面からのリスク	35
3. 米等、食料価格の上昇	40
4. 社会サービスへのアクセスと貧困	40
VII. JICA の優先課題における貧困	43
1. 経済成長（電力・交通といったインフラ整備）	43
2. 地域間格差是正（connectivity の強化）	45
3. 域内（地球的）課題解決への貢献	48
添付 1. 参考文献リスト	50
添付 2. 主要な情報源リスト	52

図表・地図目次

図表 1 主要指標一覧（2000-2010 年）	iv
図表 2 インドネシア政府による基本指標（上段 2001-2005 年、下段 2006-2010 年）	vi
図表 3 貧困ギャップ率・ジニ係数・消費支出の割合（1996-2009 年）	viii
図表 4 貧困ギャップ率と二乗貧困ギャップ比率（1999-2010 年）	viii
図表 5 都市と農村における貧困の割合（1998-2011 年）	ix
図表 6 HDI 指標（1996-2008 年）	ix
図表 7 HDI 指標（州別：2004-2008 年）	x

図表 8	MDG 指標 (1999,2007,2009 年)	xi
図表 9	輸出入・GDP 成長・MDG 指標・経済の開放度 (1990-2009 年)	2
図表 10	国家長期開発計画 (RPJPN) における 4 つのステージ (2005-2025 年)	4
図表 11	国家中期開発計画 (RPJMN) における人々の福祉のための目標 (2010-2014 年)	5
図表 12	国家貧困削減チームの組織図 (2010 年)	8
図表 13	インドネシア政府による貧困削減戦略の 3 つのクラスター (2010 年)	9
図表 14	インドネシア政府の社会的保護スキームの展開 (1998/99-2010 年)	10
図表 15	インドネシアにおける主要な貧困削減プロジェクト (2010 年)	13
図表 16	インドネシア中央統計局 (BPS) による国家貧困線の推移 (1976-2010 年)	15
図表 17	インドネシアにおける貧困者層の消費分布図 (2006 年)	15
図表 18	都市と農村における貧困の割合 (1998-2011 年)	16
図表 19	インドネシアにおける長期の貧困削減状況の推移 (1976-2010 年)	17
図表 20	インドネシアにおける貧困線以下の人口の割合 (州別、2010 年)	18
図表 21	貧困ギャップ率・ジニ係数・消費支出の割合 (1996-2009 年) (再掲)	19
図表 22	地域別貧困ギャップ率と二乗貧困ギャップ比率 (2010-2011 年)	20
図表 23	貧困ギャップ率・ジニ係数・消費支出の割合 (1996-2009 年) (再掲)	20
図表 24	消費階層別のジニ係数 (2007-2009 年)	21
図表 25	州別・都市部・農村部別のジニ係数 (2002-2006 年)	22
図表 26	インドネシア人間開発指標 (HDI) の推移 (1980-2011 年)	23
図表 27	HDI 指標 (1996-2008 年) (再掲)	23
図表 28	HDI 指標 (州別: 2004-2008 年) (再掲)	24
図表 29	出産時に保健技術を有する人材にケアされた妊婦の割合 (州別、2009 年)	26
図表 30	エイズ患者の人数 (州別、2009 年)	27
図表 31	貧困層世帯と非貧困層世帯の世帯構成員数 (2008, 2009 年)	30
図表 32	貧困層に占める女性世帯主世帯の割合 (2008, 2009 年)	31
図表 33	労働者の最終学歴の割合 (地域別: 1990, 1999, 2010 年)	31
図表 34	世帯主の教育水準と貧困の関係 (2008, 2009 年)	32
図表 35	世帯主の職業と貧困の関係 (2008, 2009 年)	33
図表 36	全労働者における雇用形態別割合 (2010 年)	33
図表 37	インドネシアにおける貧困線以下人口の州別割合 (2010 年) (再掲)	34
図表 38	インドネシアの人口爆発予測図	35
図表 39	人口分布と人口密度 (県別: 2000, 2010 年)	36
図表 40	スラム世帯の割合 (州別: 2009 年)	37

図表 41	若年失業率の国際比較（2010年）	38
図表 42	男女別出稼ぎ労働者数（1996-2007年）	39
図表 43	海外移住労働者数と国名（2009年）	39
図表 44	米価格の変動の推移（1969-2005年）	40
図表 45	都市と農村の家計の支出関数の推定結果（1999-2002年）	42
図表 46	地域別インフラへのアクセス（1994-2002年）	44
図表 47	州別・都市部・農村部別のジニ係数（2002-2006年）（再掲）	46
図表 48	ジニ係数が最も高い7州のジニ係数の推移（2002-2006年）	47
図表 49	安全な飲料水へのアクセスがある世帯の割合（州別：2009年）	47
図表 50	衛生設備へのアクセスがある世帯の割合（州別：2009年）	48
図表 51	気候変動による自然災害が発生した場合の貧困率の変化（推計）	49
地図 1	インドネシア全土地図	xvi
地図 2	インドネシアの地域別貧困率（2009年）	18
地図 3	インドネシアの食糧安全保障と脆弱性に関する地図（2011年）	29

略語表

BAPPENAS	National Development Planning Ministry	国家開発計画省
BPS	Central Bureau of Statistics: Badan Pusat Statistik	インドネシア中央統計局
BULOG	National Logistics Agency	食糧調達庁
HDI	Human Development Index	人間開発指標
HDR	Human Development Report	人間開発報告書
MDG	Millenium Development Goals	ミレニアム開発目標
NCFS	National Council for Food Security	国家食料安全保障協議会
NHDR	National Human Development Report	国別人間開発報告書
OCHA	Office for Coordination of Humaniterian Affairs	国連人道調整局
OECD	Organisation for Economic Co-operation and Development	経済協力開発機構
SUSENAS	Survei Sosial Ekonomi Nasional	社会経済調査
UN	United Nations	国際連合（国連）
UNDP	United Nations Development Programme	国連開発計画
VAM	Valunerability Analaysis and Mapping	脆弱性分析・地図
WFP	World Food Programme	世界食糧計画
WB	World Bank	世界銀行（世銀）

図表 1 主要指標一覧 (2000-2010年)¹

2012年1月版

主要指標一覧【インドネシア】						
	指標項目	2000年	2008年	2009年	2010年	2010年の地域平均値
社 会 指 標 等	地表面積(1000km ²)	1,905	1,905	1,905	1,905	n.a.
	人口(百万人)	213.4	235.0	237.4	239.9	2,201.6
	人口増加率(%)	1.3	1.1	1.0	1.0	0.7
	出生時平均余命(歳)	66	68	68	n.a.	n.a.
	妊産婦死亡率(/10万人)	350	240	n.a.	n.a.	n.a.
	乳児死亡率(/1000人)	38.4	29.2	28.1	27.2	18.8
	一人当たりカロリー摂取量(kcal/1日)*1	2,498	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
	初等教育総就学率(男)(%)	108.3	117.0	118.9	n.a.	n.a.
	初等教育総就学率(女)(%)	104.6	114.0	115.0	n.a.	n.a.
	中等教育総就学率(男)(%)	54.1	70.5	75.4	n.a.	n.a.
	中等教育総就学率(女)(%)	51.5	69.9	74.7	n.a.	n.a.
	高等教育総就学率(%)	n.a.	20.2	22.4	n.a.	n.a.
	成人識字率(15歳以上の人口の内:%)	n.a.	92.2	n.a.	n.a.	n.a.
	絶対的貧困水準(1日1.25\$以下の人口比:%)	n.a.	n.a.	18.7	n.a.	n.a.
	失業率(%)	6.1	8.4	7.9	n.a.	n.a.
経 済 指 標	GDP(百万USドル)	165,021	510,245	539,355	706,558	16,184,757
	一人当たりGNI(USドル)	560	1,950	2,160	2,500	7,118
	実質GDP成長率(%)	4.9	6.0	4.6	6.1	6.8
	産業構造(対GDP比:%)					
	農業	15.6	14.5	15.3	15.3	n.a.
	工業	45.9	48.1	47.7	47.0	n.a.
	サービス業	38.5	37.5	37.0	37.6	n.a.
	産業別成長率(%)					
	農業	1.9	4.8	4.0	2.9	2.9
	工業	5.9	3.7	3.5	4.7	n.a.
	サービス業	5.2	8.7	5.7	8.4	n.a.
	総資本形成率(対GDP比:%)	22.2	27.8	31.0	32.5	25.6
	貯蓄率(対GDP比:%)	32.8	28.9	33.8	34.1	28.2
	消費者物価上昇率(インフレ:%)	3.7	9.8	4.8	5.1	n.a.
	財政収支(対GDP比:%)	n.a.	-0.3	-1.7	n.a.	n.a.
	中央政府債務残高(対GDP比:%)	n.a.	33.1	28.4	n.a.	n.a.
	貿易収支(対GDP比:%)	10.5	1.1	2.8	1.6	2.6
	経常収支(対GDP比:%)	4.8	0.0	2.0	0.8	n.a.
	外国直接投資純流入額(百万ドル)	-4,550	3,419	2,628	10,706	n.a.
対外債務残高(対GNI比:%)	95.4	30.0	31.3	26.1	n.a.	
DSR(対外債務返済比率:%)	22.7	13.5	18.5	16.6	n.a.	
総外貨準備高(輸入支払い可能月数)	5.3	3.8	6.2	6.6	16.5	
総外貨準備高(百万ドル)	29,353	51,641	66,119	96,211	5,743,625	
名目対ドル為替レート*2	8,421.78	9,698.96	10,389.94	9,090.43	n.a.	
	(Rupiah per US Dollar: Period Average)					
政*3 治 指 標	政治体制: 共和制。大統領が最高権力者 憲法: 1945年8月18日施行。2002年8月第4次改正 元首: 大統領。スロ・ハンバン・ユドヨノ(Susilo Bambang YUDHOYONO)。直接選挙制。任期5年。2004年10月20日就任 09年10月20日2期目就任。3選禁止 議会: 1院制。560議席。任期5年 内閣: 大統領が関係を任命。首相なし。2009年10月22日発足					

出典 World Development Indicators Online (December 2011) World Bank

*1 FAO Food Balance Sheets (June 2010) FAOSTAT Homepage

*2 International Financial Statistics Online (January 2012) IMF

*3 世界年鑑 2011 共同通信社

注 ●地域平均値は東アジア・太平洋諸国の数値(地域分類は別添参照)

●「人口」、「GDP」、「外国直接投資純流入額」及び「総外貨準備高」の「2010年の地域平均値」においては、地域の総数を示す

●妊産婦死亡率の数値はWHO・ユニセフ・国連人口基金(UNFPA)の評価を反映した推定値

●総就学率は、学齢人口に占める就学者総数(年齢を問わない)の割合であるため、数値が100を超えることがある

¹ JICA 研究所にて年 3 回改定。 <https://libportal.jica.go.jp/fmi/xsl/library/public/data/shihyo-p.html> (2012年3月23日アクセス)

中央政府歳入・歳出【インドネシア】

	2007年	2008年	2009年	2009年		対ドルレート 10,389.94
	(十億ルピア)	(十億ルピア)	(十億ルピア)	(百万US\$)*	対GDP比**	
歳入	697,937	966,117	863,105	83,071	15.4%	GDP(現地通貨) 5,603,871
租税収入	490,989	645,121	640,830	61,678	11.4%	
社会保障	0	0	0	0	0.0%	
贈与受取	1,697	2,273	1,150	111	0.0%	
その他	205,251	318,723	221,125	21,283	3.9%	
歳出	677,819	912,790	882,931	84,979	15.8%	
人件費	90,305	112,576	127,380	12,260	2.3%	
財貨・サービス	55,868	55,880	80,567	7,754	1.4%	
固定資本減耗	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	
利払い	77,725	88,361	94,039	9,051	1.7%	
補助金	150,214	275,290	159,543	15,356	2.8%	
贈与支払	253,284	292,632	308,581	29,700	5.5%	
扶助費	53	3,983	4,562	439	0.1%	
その他	50,390	84,068	108,260	10,420	1.9%	
非金融資産の純増	60,465	69,914	73,893	7,112	1.3%	
財政収支	-40,347	-16,587	-93,719	-9,020	-1.7%	

総支出内訳(目的別分類)【インドネシア】

	2007年	2008年	2009年		2009年	
	(十億ルピア)	(十億ルピア)	(十億ルピア)	内訳	(百万US\$)*	対GDP比**
総支出	738,283	982,704	956,824	100.0%	92,091	17.1%
一般サービス	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
国防	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
公安	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
経済関連	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
農林水産業	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
エネルギー	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
鉱工業・建設業	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
運輸	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
通信	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
環境保全	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
住宅・生活関連施設	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
保健・医療	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
レクリエーション・文化	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
教育	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
社会保障・福祉	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.

注: 総支出内訳における総支出には非金融資産の純増を含む

会計年度は1月～12月

*: 対ドル換算レートはMarket Rate, Period Average 出典はInternational Financial Statistics (Online) January 2012 IMF

**: GDPの出典はThe World Economic Outlook September 2011 IMF Homepage

出典: Government Finance Statistics (CD-ROM) September 2011 IMF

JICAの対インドネシア技術協力

通貨単位	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	累計
億円	77.85	61.12	62.52	81.05	85.89	3,120.90
百万ドル	66.68	51.88	60.46	86.59	97.82	

注: 年の区切りは日本の会計年度(4月～3月)、また対ドル換算レートはOECD Homepageによる

出典: JICA技術協力実績

対インドネシアODA実績

《我が国》

(支出純額、単位: 百万ドル)

暦年	政府貸付等	無償資金協力	技術協力	合計
2005年	952.53	172.21	98.40	1,223.13
2006年	-241.88	60.67	90.96	-90.25
2007年	-343.35	39.21	81.68	-222.46
2008年	-396.18	37.06	74.21	-284.92
2009年	-628.20	27.26	88.14	-512.79
累計	14,644.41	1,839.69	3,213.61	19,697.72

《DAC諸国・国際機関》

(支出純額、単位: 百万ドル)

暦年	1位	2位	3位	4位	5位	うち日本	合計
2006年	オーストラリア 240.23	米国 190.10	英国 101.56	オランダ* 75.62	ドイツ 50.39	-90.25	601.96
2007年	オーストラリア 335.06	米国 117.34	英国 69.73	カナダ* 53.44	オランダ* 42.43	-222.46	360.88
2008年	オーストラリア 325.23	米国 115.12	フランス 103.53	英国 100.69	カナダ* 82.41	-284.92	574.36

暦年	1位	2位	3位	4位	5位	その他	合計
2006年	IDA 288.32	CEC 137.24	ADB 88.49	WFP 67.07	GFATM 34.88	34.09	650.09
2007年	IDA 192.08	CEC 132.64	ADB 117.29	GEF 15.56	GFATM 10.28	38.50	506.35
2008年	IDA 466.56	CEC 54.51	GFATM 43.01	ADB 29.28	GEF 9.22	31.31	633.89

注: 年の区切りは1月～12月の暦年。DAC累計ベース

出典: ODA国別データベース 外務省

図表 2 インドネシア政府による基本指標（上段 2001-2005 年、下段 2006-2010 年）

Rincian Description	Satuan Unit	2001	2002	2003	2004	2005
(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)
SOSIAL / SOCIAL						
Penduduk ¹ / Population ¹	juta / million	207,9	210,7	213,6	216,4	219,8
Laju Pertumbuhan Penduduk ¹ / Population Growth ¹	%	1,36	1,35	1,34	1,33	1,32
Angka Kelahiran Total-AKT ¹ / Total Fertility Rate-TFR ¹	anak / child	2,3	2,3	2,3	2,3	2,2
Angka Kematian Bayi-AKB (per 1000 kelahiran hidup) ¹ Infant Mortality Rate-IMR (per 1000 life births) ¹	bayi infant	39,0	37,2	35,5	33,9	28,9
Angka Harapan Hidup ^{1-e₀} / Life Expectancy Rate ¹	tahun / years	67,4	67,8	68,2	68,6	70,0
Angka Melek Huruf Usia 15+ / Literacy Rate Aged 15+	%	67,9	68,5	69,8	90,4	90,9
Tingkat Partisipasi Angkatan Kerja -TPAK ² Labour Force Participation Rate-LFPR ²	%	68,7	67,8	67,9	67,6	66,8
Tingkat Pengangguran Terbuka-TPT Open Unemployment Rate-OUR	%	8,1	9,1	9,7	9,9	11,2
Penduduk Miskin / Poor People	juta / million	37,9	38,4	37,3	36,1	35,1
Persentase Penduduk Miskin Percentage of Poor People	%	18,41	18,20	17,42	16,66	15,97
Indeks Pembangunan Manusia-IPM Human Development Index-HDI	—	—	65,8	—	68,7	69,6
EKONOMI / ECONOMIC						
Produk Domestik Bruto (PDB) Harga Berlaku Gross Domestic Bruto (GDP) at Current Price	triliun rupiah trillion rupiahs	1 646,3	1 821,8	2 013,7	2 295,8	2 774,3
Laju Pertumbuhan Ekonomi / Economic Growth	%	3,6	4,5	4,8	5,0	5,7
PDB Per Kapita Harga Berlaku Per Capita of GDP at Current Price	juta rupiah million rupiahs	8,1	8,6	9,4	10,6	12,7
Inflasi / Inflation	%	12,6 ^a	10,0 ^a	5,1 ^a	6,4 ^r	17,1 ^r
Ekspor / Export	miliar / billion US\$	56,3	57,2	61,1	71,6	85,7
Impor / Import	miliar / billion US\$	31,0	31,3	32,8	46,5	57,7
Wisatawan Asing / Foreign Tourists	juta / million	5,2	5,0	4,5	5,3	5,0
Uang Beredar Luas (M2) Broad Money	triliun rupiah trillion rupiahs	844,1	883,9	955,7	1 033,5	1 203,2
Posisi Cadangan Devisa / Reserve Asset Position	miliar / billion US\$	28,0	32,0	36,3	36,3	34,7
Realisasi Penanaman Modal Dalam Negeri (PMDN) Realization of Domestic Investment	triliun rupiah trillion rupiahs	9,9	12,5	12,2	15,4	30,7
Realisasi Penanaman Modal Asing (PMA) Realization of Foreign Investment	miliar / billion US\$	3,5	3,1	5,4	4,6	8,9
Suku Bunga Sertifikat Bank Indonesia (1 bulan) Interest Rate of Bank Indonesia Certificate (1 month)	%	17,6	12,9	8,3	7,4	12,8
Kurs Tengah US\$ / Middle Rate of US\$	rupiah / rupiahs	10 400	8 940	8 465	9 290	9 830
Indeks Harga Saham Gabungan (IHSG) Composite Stocks Price Index (CSPi)	—	392,0	424,9	679,3	1 000,2	1 162,6

Rincian Description	Satuan Unit	2005	2007	2008	2009	2010
(1)	(2)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)
SOSIAL / SOCIAL						
Penduduk ¹ / Population ¹	juta / million	222,7	225,6	228,5	231,4	234,2 ²
Laju Pertumbuhan Penduduk ¹ / Population Growth ¹	%	1,30	1,28	1,25	1,22	1,18
Angka Kelahiran Total-AKT ¹ / Total Fertility Rate-TFR	anak / child	2,19	2,18	2,17	2,16	2,15
Angka Kematian Bayi-AKB (per 1000 kelahiran hidup) ¹ Infant Mortality Rate-IMR (per 1000 life births) ¹	bayi / infant	28,2	27,5	26,8	26,2	25,5
Angka Harapan Hidup ^{1-e₀} / Life Expectancy Rate ¹	tahun / years	70,2	70,4	70,5	70,7	70,9
Angka Melek Huruf Usia 15+ / Literacy Rate Aged 15+	%	91,5	91,9	92,2	92,6	...
Tingkat Partisipasi Angkatan Kerja -TPAK ² Labour Force Participation Rate-LFPR ²	%	66,2	67,0	67,2	67,2	67,8
Tingkat Pengangguran Terbuka-TPT ³ Open Unemployment Rate-OUR ³	%	10,3	9,1	8,4	7,9	7,4
Penduduk Miskin / Poor People	juta / million	39,3	37,2	35,0	32,5	31,0
Persentase Penduduk Miskin Percentage of Poor People	%	17,75	16,58	15,42	14,15	13,3
Indeks Pembangunan Manusia-IPM Human Development Index	--	70,1	70,6	71,2
EKONOMI / ECONOMIC						
Produk Domestik Bruto (PDB) Harga Berlaku Gross Domestic Bruto (GDP) at Current Price	triliun rupiah trillion rupiahs	3 339,2	3 950,9	4 951,4	5 613,4	3 068,6 ⁴
Laju Pertumbuhan Ekonomi / Economic Growth	%	5,5	6,3	6,0 ⁵	4,6 ⁶	5,9 ⁶
PDB Per Kapita Harga Berlaku Per Capita of GDP at Current Price	juta rupiah million rupiahs	15,0	17,5	21,7 ⁵	24,3 ⁶	13,1 ⁴
Inflasi / Inflation (y-a-y)	%	6,6 ⁷	6,6 ⁷	11,1 ⁸	2,9	2,4 ^{8a}
Ekspor / Export	miliar / billion US\$	100,8	114,1	137,0	116,5	75,5 ⁹
Impor / Import	miliar / billion US\$	61,1	74,5	129,2	98,8	62,9 ⁹
Wisatawan Asing / Foreign Tourists	juta / million	4,9	5,5	6,2	6,3	3,4 ⁹
Uang Beredar Luas (M2) Broad Money	triliun rupiah trillion rupiahs	1 382,5 ¹	1 649,7 ¹	1 895,8 ¹	2 141,4	2 230,2 ¹¹
Posisi Cadangan Devisa / Reserve Asset Position	miliar / billion US\$	42,6	56,9	51,8	66,1	78,3 ¹¹
Realisasi Penanaman Modal Dalam Negeri-PMDN Realization of Domestic Investment	triliun rupiah trillion rupiahs	20,8	34,9	20,4	37,8	...
Realisasi Penanaman Modal Asing-PMA Realization of Foreign Investment	miliar / billion US\$	6,0	10,3	14,9	10,8	...
Suku Bunga Sertifikat Bank Indonesia (1 bulan) Interest Rate of Bank Indonesia Certificate (1 month)	%	9,8	8,0	10,8	6,5	6,3 ¹²
Kurs Tengah US\$ / Middle Rates of US\$	rupiah / rupiahs	9 020	9 419	10 950	9 400	8 952 ¹²
Indeks Harga Saham Gabungan (IHSG) Composite Stocks Price Index (CSPi)	--	1 805,5	2 745,8	1 355,4	2 534	2 914 ¹²

(出所)BPS (2010) Indonesia Statistical Yearbook of Indonesia 2010, pp.1-2

図表 3 貧困ギャップ率・ジニ係数・消費支出の割合（1996-2009年）

	Poverty gap urban	Poverty gap rural	Poverty gap national	Gini coefficient	Percentage household expenditure for food
1996	2.58	3.62	3.25	0.33	n.a.
1999	3.52	4.84	4.18	0.31	62.94
2002	2.59	3.34	3.01	0.33	58.47
2003	2.55	3.53	3.13	0.32	56.89
2004	2.18	3.43	2.89	0.32	54.59
2005	n.a.	n.a.	2.94	0.36	51.37
2006	n.a.	n.a.	3.43	0.33	53.01
2007	2.15	3.78	2.99	0.36	49.24
2008	2.07	3.42	3.37	0.35	50.17
2009	1.91	3.05	2.51	0.37	50.62

Source: BPS several years.

(出所) OECD (2010) Economic Importance of Agriculture for Sustainable Development and Poverty Reduction: Findings from a Case Study of Indonesia, p.20

図表 4 貧困ギャップ率と二乗貧困ギャップ比率（1999-2010年）

Tahun Year	Indeks Kedalaman Kemiskinan Poverty Gap Index			Indeks Keparahan Kemiskinan Poverty Severity Index		
	Kota Urban	Desa Rural	Kota + Desa Urban + Rural	Kota Urban	Desa Rural	Kota + Desa Urban + Rural
(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)
1999	3.52	4.84	4.33	0.98	1.39	1.23
2000	1.89	4.68	3.51	0.51	1.39	1.02
2001	1.74	4.68	3.42	0.45	1.36	0.97
2002	2.59	3.34	3.01	0.71	0.85	0.79
2003	2.55	3.53	3.13	0.74	0.93	0.85
2004	2.18	3.43	2.89	0.58	0.90	0.78
2005	2.05	3.34	2.78	0.60	0.89	0.76
2006	2.61	4.22	3.43	0.77	1.22	1.00
2007	2.15	3.78	2.99	0.57	1.09	0.84
2008	2.07	3.42	2.77	0.56	0.95	0.76
2009	1.91	3.05	2.50	0.52	0.82	0.68
2010	1.57	2.80	2.21	0.40	0.75	0.58

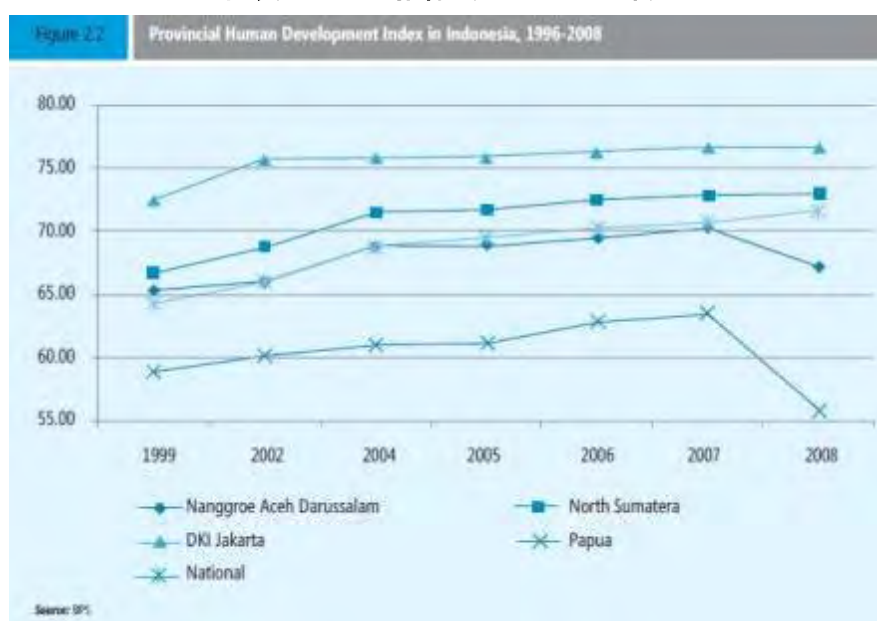
(出所) BPS (2011) Statistics Indonesia: BPS Strategic Data, p.187

図表 5 都市と農村における貧困の割合（1998-2011 年）

Year	Number of Poor (Millions)			Percentage of Poor		
	Urban	Rural	Urban+Rural	Urban	Rural	Urban+Rural
(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)
1998	17.60	31.90	49.50	21.92	25.72	24.23
1999	15.64	32.33	47.97	19.41	26.03	23.43
2000	12.30	26.40	38.70	14.60	22.38	19.14
2001	8.60	29.30	37.90	9.76	24.84	18.41
2002	13.30	25.10	38.40	14.46	21.10	18.20
2003	12.20	25.10	37.30	13.57	20.23	17.42
2004	11.40	24.80	36.10	12.13	20.11	16.66
2005	12.40	22.70	35.10	11.88	19.98	15.97
2006	14.49	24.81	39.30	13.47	21.81	17.75
2007	13.56	23.61	37.17	12.52	20.37	16.58
2008	12.77	22.19	34.96	11.65	18.93	15.42
2009	11.91	20.62	32.53	10.72	17.35	14.15
2010	11.10	19.93	31.02	9.87	16.56	13.33
2011	11.05	18.97	30.02	9.23	15.72	12.49

(出所)BPS: Statistics Indonesia (2011) *BPS Strategic Data*, p.61

図表 6 HDI 指標（1996-2008 年）



(出所)UNDP (2010) Provincial Human Development Report Aceh 2010, p.13

http://hdr.undp.org/en/reports/national/asiathepacific/indonesia/NHDR_Aceh_2010_English.pdf

(2012/3/23 アクセス)

图表 7 HDI 指标 (州别: 2004-2008 年)

[Diolah dari Hasil Survei Sosial Ekonomi Nasional (Susenas), Sensus Penduduk (SP) 2000 dan Survei Penduduk Antar Sensus (Supas) 2005, BPS / Based on National Socio Economic Survey, 2000 Population Census and 2005 Intercensal Population Census, BPS - Statistics Indonesia]

Provinsi Province	2004	2005	2006	2007	2008
(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)
Aceh	68,7	69,0	69,4	70,3	70,76
Sumatera Utara	71,4	72,0	72,5	72,8	73,29
Sumatera Barat	70,5	71,2	71,7	72,2	72,96
Riau	72,2	73,6	73,8	74,8	75,09
Kepulauan Riau	70,8	72,2	72,8	73,7	74,18
Jambi	70,1	71,0	71,3	71,5	71,99
Sumatera Selatan	69,6	70,2	71,1	71,4	72,05
Kepulauan Bangka Belitung	69,6	70,7	71,2	71,6	72,19
Bengkulu	69,9	71,1	71,3	71,6	72,14
Lampung	68,4	68,8	69,4	69,8	70,30
DKI Jakarta	75,8	76,1	76,3	76,6	77,03
Jawa Barat	69,1	69,9	70,3	70,7	71,12
Banten	67,9	68,8	69,1	69,3	69,70
Jawa Tengah	68,9	69,8	70,3	70,9	71,60
DI Yogyakarta	72,9	73,5	73,7	74,2	74,88
Jawa Timur	66,8	68,4	69,2	69,8	70,38
Bali	69,1	69,8	70,1	70,5	70,98
Nusa Tenggara Barat	60,6	62,4	63,0	63,7	64,12
Nusa Tenggara Timur	62,7	63,6	64,8	65,4	66,15
Kalimantan Barat	65,4	66,2	67,1	67,5	68,17
Kalimantan Tengah	71,7	73,2	73,4	73,5	73,88
Kalimantan Selatan	66,7	67,4	67,8	68,0	68,72
Kalimantan Timur	72,2	72,9	73,3	73,8	74,52
Sulawesi Utara	73,4	74,2	74,4	74,7	75,16
Gorontalo	65,4	67,5	68,0	68,8	69,29
Sulawesi Tengah	67,3	68,5	68,9	69,3	70,09
Sulawesi Selatan	67,8	68,1	68,8	69,6	70,22
Sulawesi Barat	64,4	65,7	67,1	67,7	68,55
Sulawesi Tenggara	66,7	67,5	67,8	68,3	69,00
Maluku	69,0	69,2	69,7	70,0	70,38
Maluku Utara	66,4	67,0	67,5	67,8	68,18
Papua	60,9	62,1	62,8	63,4	64,00
Papua Barat	63,7	64,8	66,1	67,3	67,95
Indonesia	68,7	69,6	70,1	70,6	71,17

(出所)BPS (2010) Indonesia Statistical Yearbook of Indonesia 2010, p.189

图表 8 MDG 指标 (1999,2007,2009 年)

Status: ● Already achieved ● On-track ▼ Need special attention

Indicators	Baseline	Current	MDGs Target 2015	Status	Source	
GOAL 1: ERADICATE EXTREME POVERTY AND HUNGER						
<i>Target 1A: Halve, between 1990 and 2015, the proportion of people whose income is less than USD 1 (PPP) a day</i>						
1.1	Proportion of population below USD 1 (PPP) per day	20.60% (1990)	5.90% (2008)	10.30%	●	World Bank and BPS
1.2	Poverty gap ratio (incidence × depth of poverty)	2.70% (1990)	2.21% (2010)	Reduce	●	BPS, Susenas
<i>Target 1B: Achieve full and productive employment and decent work for all, including women and young people</i>						
1.4	Growth rate of GDP per person employed	3.52% (1990)	2.24% (2009)	-		National PDB and BPS, Sakernas
1.5	Employment-to-population (over 15 years of age)	65% (1990)	62% (2009)	-		BPS, Sakernas
1.7	Proportion of own-account and contributing family workers in total employment	71% (1990)	64% (2009)	Decrease	●	
<i>Target 1C: Halve, between 1990 and 2015, the proportion of people who suffer from hunger</i>						
1.8	Prevalence of underweight children under-five years of age	31.0% (1989)*	18.4% (2007)** 17.9% (2010)**	15.5%	●	* BPS, Susenas ** MOH, Riskesdas 2007; 2010 (interim data)
1.8a	Prevalence of severe underweight children under-five years of age	7.2% (1989)*	5.4% (2007)** 4.9% (2010)**	3.6%	●	
1.8b	Prevalence of moderate underweight children under-five years of age	23.8% (1989)*	13.0% (2007)** 13.0% (2010)**	11.9%	●	
1.9	Proportion of population below minimum level of dietary energy consumption: 1400 kcal/capita/day 2000 kcal/capita/day	17.00% (1990) 64.21% (1990)	14.47% (2009) 61.86% (2009)	8.50% 35.32%	▼	
GOAL 2: ACHIEVE UNIVERSAL PRIMARY EDUCATION						
<i>Target 2A: Ensure that, by 2015, children everywhere, boys and girls alike, will be able to complete full course of primary schooling</i>						
2.1	Net Enrolment Ratio (NER) in primary education	88.70% (1992)**	95.23% (2009)*	100.00%	●	* MONE ** BPS, Susenas
2.2	Proportion of pupils starting grade 1 who complete primary school	62.00% (1990)*	93.50% (2008)**	100.00%	●	* MONE ** BPS, Susenas
2.3	Literacy rate of population aged 15-24 year, women and men	96.60% (1990)	99.47% (2009) Female: 99.40% Male: 99.55%	100.00%	●	BPS, Susenas
GOAL 3: PROMOTE GENDER EQUITY AND EMPOWER WOMEN						
<i>Target 3A: Eliminate gender disparity in primary and secondary education, preferably by 2005, and in all levels of education no later than 2015</i>						
















Status: ● Already achieved ● On-track ▼ Need special attention

Indicators		Baseline	Current	MDGs Target 2015	Status	Source
3.1	Ratios of girls to boys in primary, secondary and tertiary education					
	- Ratio of girls to boys in primary schools	100.27 (1993)	99.73 (2009)	100.00	●	BPS, Susenas
	- Ratio of girls to boys in junior high schools	99.86 (1993)	101.99 (2009)	100.00	●	
	- Ratio of girls to boys in senior high schools	93.67 (1993)	96.16 (2009)	100.00	●	
	- Ratio of girls to boys in higher education	74.06 (1993)	102.95 (2009)	100.00	●	
3.1a	Literacy ratio of women to men in the 15-24 year age group	98.44 (1993)	99.85 (2009)	100.00	●	
3.2	Share of women in wage employment in the non-agricultural sector	29.24% (1990)	33.45% (2009)	Increase	●	BPS, Sakernas
3.3	Proportion of seats held by women in national parliament	12.50% (1990)	17.90% (2009)	Increase	●	KPU
GOAL 4: REDUCE CHILD MORTALITY						
<i>Target 4A: Reduce by two-thirds, between 1990 and 2015, the under-five mortality rate</i>						
4.1	Under-five mortality rate per 1,000 live births	97 (1991)	44 (2007)	32	●	BPS, IDHS 1991, 2007; * BPS, Riskesdas 2010 (interim data)
4.2	Infant mortality rate per 1,000 live births	68 (1991)	34 (2007)	23	●	
4.2a	Neonatal mortality rate per 1,000 live births	32 (1991)	19 (2007)	Decrease	●	
4.3	Proportion of one-year-old children immunized against measles	44.5% (1991)	67.0% (2007) 74.5% (2010)*	Increase	●	
GOAL 5: IMPROVE MATERNAL HEALTH						
<i>Target 5A: Reduce by three-quarters, between 1990 and 2015, the Maternal Mortality Ratio</i>						
5.1	Maternal Mortality Ratio (per 100,000 live births)	390 (1991)	228 (2007)	102	▼	BPS, IDHS 1993, 2007
5.2	Proportion of births attended by skilled health personnel (%)	40.70% (1992)	77.34% (2009)	Increase	●	BPS, Susenas 1992-2009
<i>Target 5B: Achieve, by 2015, universal access to reproductive health</i>						
5.3	Current contraceptive use among married women 15-49 years old, any method	49.7% (1991)	61.4% (2007)	Increase	●	BPS, IDHS 1991, 2007
5.3a	Current contraceptive use among married women 15-49 years old, modern method	47.1% (1991)	57.4% (2007)	Increase	▼	
5.4	Adolescent birth rate (per 1000 women aged 15-19)	67 (1991)	35 (2007)	Decrease	●	
5.5	Antenatal care coverage (at least one visit and at least four visits)					
	- 1 visit:	75.0%	93.3%	Increase	●	
	- 4 visits:	56.0% (1991)	81.5% (2007)	Increase	●	
5.6	Unmet need for family planning	12.70% (1991)	9.10% (2007)	Decrease	▼	
GOAL 6: COMBAT HIV/AIDS, MALARIA AND OTHER DISEASES						
<i>Target 6A: Have halted by 2015 and begun to reverse the spread of HIV/AIDS</i>						

Status: ● Already achieved ● On-track ▼ Need special attention

Indicator		Baseline	Current	MDGs Target 2015	Status	Source
6.1	HIV/AIDS Prevalence among total population (percent)	-	0.2% (2009)	Decrease	▼	MOH estimated 2006
6.2	Condom use at last high-risk sex	12.8% (2002/03)	Female: 10.3%	Increase	▼	BPS, IWARHS 2002/2003 & 2007
			Male: 18.4% (2007)		▼	
6.3	Proportion of population aged 15-24 years, with comprehensive correct knowledge of HIV/AIDS					
	— Married	-	Female: 9.5% Male: 14.7% (2007) Female: 11.9% Male: 15.4% (2010)*	Increase	▼	BPS, IDHS 2007; Risetdas 2010 (interim data)
	— Unmarried	-	Female: 2.6% Male: 1.4% (2007) Female: 19.8% Male: 20.3% (2010)*	Increase	▼	BPS, IWARHS 2007; Risetdas 2010 (interim data)
Target 6B: Achieve, by 2010, universal access to treatment for HIV/AIDS for all those who need it						
6.5	Proportion of population with advanced HIV infection with access to antiretroviral drugs	-	38.4% (2009)	Increase	●	MOH, 2010 as per 30 November 2009
Target 6C: Have halted by 2015 and begun to reverse the incidence of Malaria and other major diseases						
6.6	Incidence and death rates associated with Malaria (per 1,000)					
6.6.a	Incidence rate associated with Malaria (per 1,000):	4.68 (1990)	1.85 (2009) 2.4% (2010)*	Decrease	●	MOH 2009; MOH, Risetdas 2010 (interim data)
	- incidence of Malaria in Jawa & Bali	0.17 (1990)	0.16 (2008)	Decrease	●	API, MOH 2008
	- Incidence of Malaria outside Jawa & Bali	24.10 (1990)	17.77 (2008)	Decrease	●	AMI, MOH 2008
6.7	Proportion of children under 5 sleeping under insecticide-treated bednets	-	3.3% Rural: 4.5% Urban: 1.6% (2007) 7.7% (2007)* 16.0% (2010)**	Increase	▼	BPS, IDHS 2007; * MOH, Risetdas 2007; ** MOH, Risetdas 2010 (interim data)
6.8	Proportion of children under 5 with fever who are treated with appropriate anti-malarial drugs	-	21.9% (2010)	-		Risetdas 2010 (interim data)
6.9	Incidence, prevalence and death rates associated with Tuberculosis					
6.9a	Incidence rates associated with Tuberculosis (all cases/100,000 pop/year)	343 (1990)	228 (2009)	Halted, begun to reverse	●	TB Global WHO Report, 2009
6.9b	Prevalence rate of Tuberculosis (per 100,000)	443 (1990)	244 (2009)		●	
6.9c	Death rate of Tuberculosis (per 100,000)	92 (1990)	39 (2009)		●	
6.10	Proportion of Tuberculosis cases detected and cured under directly observed treatment short courses				●	

Status:  Already achieved  On-track  Need special attention

Indicators		Baseline	Current	MDGs Target 2015	Status	Source
6.10a	Proportion of Tuberculosis cases detected under directly observed treatment short course (DOTS)	20.0% (2000)*	73.1% (2009)**	70.0%		* TB Global WHO Report, 2009
6.10b	Proportion of Tuberculosis cases cured under DOTS	87.0% (2000)*	91.0% (2009)**	85.0%		** MOH Report-2009
GOAL 7: ENSURE ENVIRONMENTAL SUSTAINABILITY						
Target 7A: Integrate the principles of sustainable development into country policies and programs and reverse the loss of environmental resources						
7.1	The ratio of actual forest cover to total land area based on the review of satellite imagery and aerial photographic surveys	59.97% (1990)	52.43% (2008)	Increase		Ministry of Forestry
7.2	Carbon dioxide (CO ₂) emissions	1,416,074 Gg CO ₂ e (2000)	1,711,626 Gg CO ₂ e (2008)	Reduce at least 26% by 2020		Ministry of Environment
7.2a	Primary energy consumption (per capita)	2.64 BOE (1991)	4.3 BOE (2008)	Reduce		Ministry of Energy and Mineral Resources
7.2b	Energy intensity	5.28 SBM/ USD 1,000 (1990)	2.1 SBM/ USD 1,000 (2008)	Decrease		
7.2c	Energy Elasticity	0.98 (1991)	1.6 (2008)	Decrease		
7.2d	Energy mix for renewable energy	3.5% (2000)	3.45% (2008)	-		
7.3	Total consumption of ozone depleting substances (ODS) in metric tons	8,332.7 metric tons (1992)	0 CFCs (2009)	0 CFCs while reducing HCFCs		Ministry of Environment
7.4	Proportion of fish stocks within safe biological limits	66.08% (1998)	91.83% (2008)	not exceed		Ministry of Marine Affairs & Fisheries
7.5	The ratio of terrestrial areas protected to maintain biological diversity to total terrestrial area	26.40% (1990)	26.40% (2008)	Increase		Ministry of Forestry
7.6	The ratio of marine protected areas to total territorial marine area	0.14% (1990)*	4.35% (2009)**	Increase		*Ministry of Forestry / ** Ministry of Marine Affairs & Fisheries
Target 7C: Halve, by 2015, the proportion of households without sustainable access to safe drinking water and basic sanitation						
7.8	Proportion of households with sustainable access to an improved water source, urban and rural	37.73% (1993)	47.71% (2009)	68.87%		BPS, Susenas
7.8a	Urban	50.58% (1993)	49.82% (2009)	75.29%		
7.8b	Rural	31.61% (1993)	45.72% (2009)	65.81%		
7.9	Proportion of households with sustainable access to basic sanitation, urban and rural	24.81% (1993)	51.19% (2009)	62.41%		
7.9a	Urban	53.64% (1993)	69.51% (2009)	76.82%		
7.9b	Rural	11.10% (1993)	33.96% (2009)	55.55%		
Target 7D: By 2020, to have achieved a significant improvement in the lives of at least 100 million slum dwellers						
7.10	Proportion of urban population living in slums	20.75% (1993)	12.12% (2009)	6% (2020)		BPS, Susenas
GOAL 8: DEVELOP A GLOBAL PARTNERSHIP FOR DEVELOPMENT						

Indicators		Baseline	Current	MDGs Target 2015	Status	Source
Target 8A: Develop further an open, rule-based, predictable, non-discriminatory trading and financial systems						
8.6a	Ratio of Exports + Imports to GDP (indicator of economic openness)	41.60% (1990)	39.50% (2009)	Increase		BPS & The World Bank
8.6b	Loans to Deposit Ratio in commercial banks	45.80% (2000)	72.80% (2009)	Increase		BI Economic Report 2008, 2009
8.6c	Loans to Deposit Ratio in rural banks	101.30% (2003)	109.00% (2009)	Increase		
Target 8D: Deal comprehensively with the debt problems of developing countries through national and international measures in order to make debt sustainable in the long-term						
8.12	Ratio of International Debt to GDP	24.50% (1996)	10.89% (2009)	Reduce		Ministry of Finance
8.12a	Debt Service Ratio (DSR)	51.00% (1996)	22.00% (2009)	Reduce		BI Annual Report 2009
Target 8F: In cooperation with the private sector, make available the benefits of new technologies, especially information and communications						
8.14	Proportion of population with fixed-line telephones (teledensity in population)	4.02% (2004)	3.65% (2009)	Increase		Min. of Comm & Info Technology, 2010
8.15	Proportion of population with cellular phones	14.79% (2004)	82.41% (2009)	100.00%		
8.16	Proportion of households with access to internet	-	11.51% (2009)	50.00%		BPS, Susenas 2009
8.16a	Proportion of households with personal computers	-	8.32% (2009)	Increase		BPS, Susenas 2009

(出所) Ministry of National Development Planning / National Development Planning Agency (BAPPENAS) (2010a) *Report of the Achievement of the Millennium Development Goals Indonesia 2010*, pp.9-13

地図 1 インドネシア全土地図



(出所) UNOCHA http://reliefweb.int/sites/reliefweb.int/files/resources/map_623.pdf (2012/3/23 アクセス)

I. インドネシアの貧困状況と概観

インドネシアは 1990 年以降、年平均 7%以上の経済成長率を達成し、中所得階層の増加や、購買力の上昇により、東南アジアの中でも特に勢いのある国として、外国企業の参入・投資も増加傾向にある（図表 9 参照）。また、OECD の Enhanced Engagement Countries（中国、インド、ブラジル、南アフリカ）の一員として先進国との開発の議論にも積極的に参加し、2008 年からは G20 にも参加するなど²、中進国としての位置を確立しつつある。

貧困削減に関しては、1997 年の経済危機以降、政府は社会的セーフティーネットを制度化し、貧困緩和政策等を打ち出してきた。その結果、貧困率は 1999 年の 23.4%から 2011 年の 12.5%へと確実に低下している。しかしながら、貧困線以下の人々の数は減少傾向にあるものの、貧困線をわずかに上回った層の人口が多く、経済・社会的な要因に対して脆弱な層が容易に貧困線以下に陥る可能性がある³。

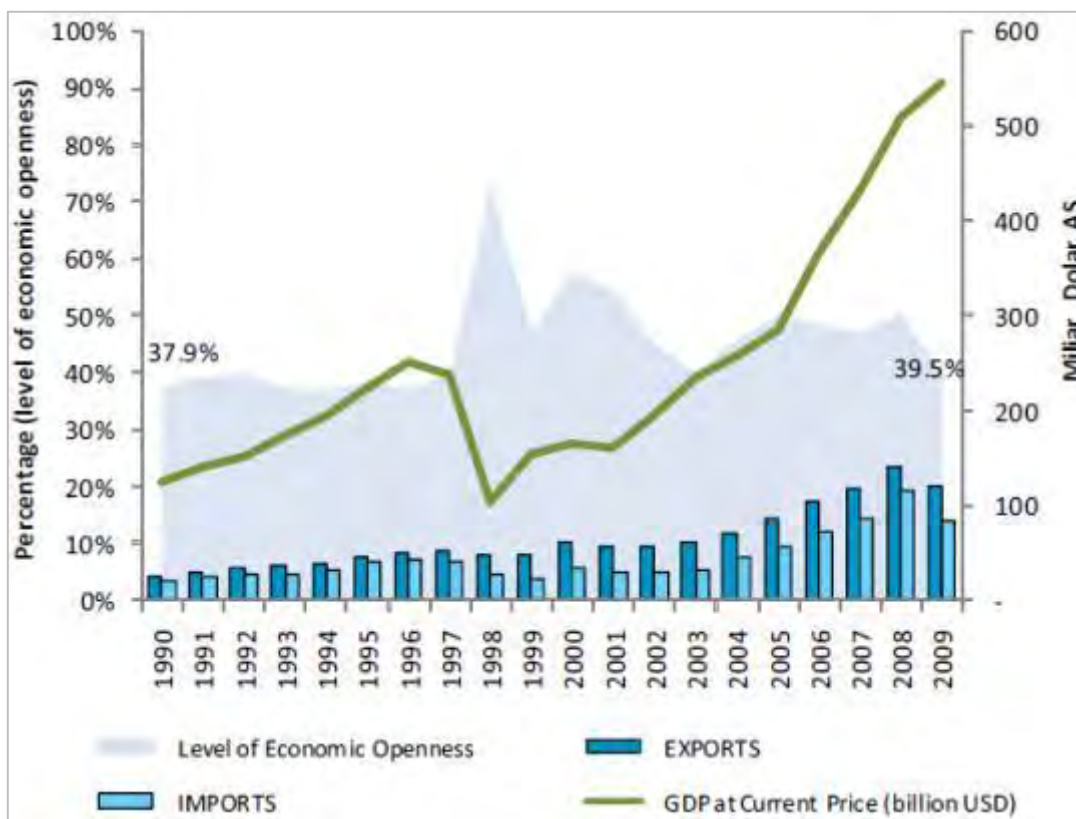
他方、教育や保健といったベーシックヒューマンニーズ（BHN）への取組みには、より一層の改善が必要な状況となっている。例えば、初等教育への就学率は 9 割を超えている一方で、中等教育の就学率の伸びは十分でなく、高等学校への就学率も 50%に達していない。また、乳幼児死亡率も低下傾向にあるものの、地方では依然として高く、妊産婦死亡率も他の発展途上国と比較すると高い割合となっている⁴。

² Ministry of National Development Planning / National Development Planning Agency（BAPPENAS）（2010a） Report on the Achievement of the Millennium Development Goals Indonesia 2010, p.2

³ World Bank Office Jakarta（2011） Targeting the Poor and Vulnerable in Indonesia, p.1

⁴ Ministry of National Development Planning / National Development Planning Agency（BAPPENAS）（2010a） Report of the Achievement of the Millennium Development Goals Indonesia 2010, p.67

図表 9 輸出入・GDP 成長・MDG 指標・経済の開放度（1990-2009 年）



(出所) Ministry of National Development Planning / National Development Planning Agency (BAPPENAS) (2010a) *Report of the Achievement of the Millennium Development Goals Indonesia 2010*, p.122

II. インドネシアの貧困削減のための政策枠組み

インドネシアの貧困削減に関わる主な政策枠組みとして、1) 国家長期開発計画 (RPJPN)、2) 国家中期開発計画 (RPJMN) があり、MDG の達成を見据えた内容が策定されている⁵。

現在、国家長期開発計画 (RPJPN 2005-2025) では、次の 8 つの柱が設定されている⁶。

1. 倫理と文化意識の高い社会
2. 高い競争力を伴い発展した社会
3. 法治国家として民主化された社会：市民社会と地方分権の強化
4. 治安が保たれた平和的で統一された国家
5. 人々のための社会：雇用確保、貧困削減、福祉の充実、差別のない社会
6. 持続可能な開発とバランスのとれた社会
7. 海洋国家としての科学技術の向上と資源保護及び防衛力を強化した国家作り
8. 国際社会の一員としての自覚、近隣地域における国際的な協力

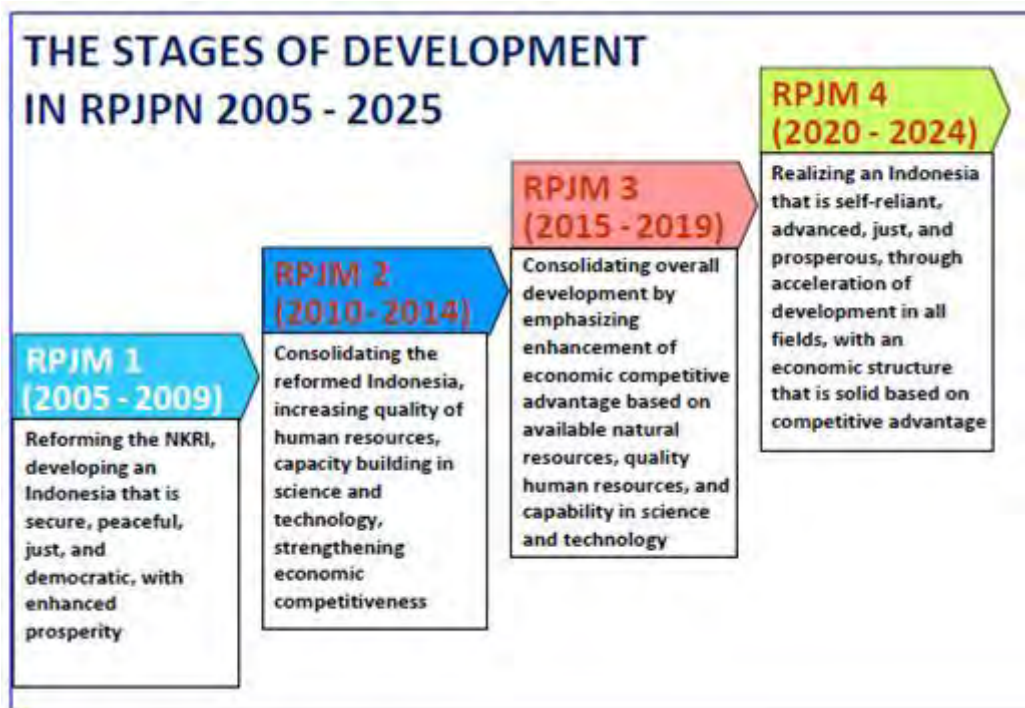
以上のような目標を達成するため、下図表のとおり 5 年ごとのステージが設定され、それぞれのステージにて国家中期計画 (RPJMN) が定められている。

- ・ ステージ 1 (First RPJM: 2005-2009)：国家開発の推進、安全で平和な社会、公平で民主的に反映した社会の構築
- ・ ステージ 2 (Second RPJM: 2010-2014)：人間開発の質の向上、科学技術の向上、経済力の推進を目指す
- ・ ステージ 3 (Third RPJM: 2015-2019)：豊かな自然資源をベースとした競争力の高い国家経済を目指す
- ・ ステージ 4 (Fourth RPJM: 2020-2025)：豊かな人的資源と地方の特性を活かした、一層の開発と自立した国家

⁵ Ministry of National Development Planning / National Development Planning Agency (BAPPENAS) (2010a) Report on the Achievement of the Millennium Development Goals Indonesia 2010, p.1

⁶ Ministry of National Development Planning / National Development Planning Agency (BAPPENAS) (2010b) Appendices: Regulation of the President of the Republic of Indonesia: Number 5 of 2010 Regarding the National Medium-Term Development Plan [RPJMN] 2010-2014, p. I-21

図表 10 国家長期開発計画（RPJPN）における4つのステージ（2005-2025年）



(出所) Ministry of National Development Planning / National Development Planning Agency (BAPPENAS) (2010b) Appendices: Regulation of the President of the Republic of Indonesia: Number 5 of 2010 Regarding the National Medium-Term Development Plan [RPJMN] 2010-2014, p. I-24

上記のうち、ステージ2である2010-2014年の国家中期開発計画（RPJMN：2010-2014）においては、中期計画を執行するため、下記のような5つのアジェンダが設定されている。

アジェンダ1：経済開発と人々の福祉の向上

アジェンダ2：グッドガバナンスの強化

アジェンダ3：民主化の推進

アジェンダ4：法整備と汚職撲滅

アジェンダ5：統合された開発

貧困削減への取り組みは、アジェンダ1における「人々の福祉の向上」の中で取り扱われている他、国家の優先課題の1つとして、貧困削減が挙げられている。具体的な目標としては、「2009年時点での貧困率14.1%を、2014年までに8-10%に削減すること」、また「家計やコミュニティエンパワーメントを基礎とした社会的保護や、低所得コミュニティへの経済的機会の拡大といった点に配慮しながら、所得分配を改善していくこと」の2点が明示されている⁷。

RPJMNにおける各分野の目標達成値の一覧は図表11のとおりとなっている。

⁷ BAPPENAS (2010) RPJM Book I (E) Matrix, p.I.M-30

図表 11 国家中期開発計画 (RPJMN) における人々の福祉のための目標 (2010-2014 年)

No.	DEVELOPMENT	TARGETS	
TARGETS ON DEVELOPMENT OF WELFARE OF THE PEOPLE			
1.	Economic		
a)	Economic growth rate	Average of 6.3 – 6.8% per year Growth of 7% before 2014	
b)	Inflation rate	Average of 4 - 6% per year	
c)	Open unemployment rate	5 - 6% at end of 2014	
d)	Poverty rate	8 - 10% at end of 2014	
2.	Education		
		Initial Status (2008)	Target in 2014
a)	Increased average school stay of people of 15 years and older (years)	7.50	8.25
b)	Decline in illiteracy rate of population aged 15 and over (%)	5.97	4.18
c)	Increased net enrolment rate of elementary schools (%)	95.14	96.0
d)	Increased net enrolment rate of junior high school (%)	72.28	76.0
e)	Increased gross enrolment rate of senior high schools (%)	64.28	85.0
f)	Increased gross enrolment rate at universities of those in 19-23 years age bracket (%)	21.26	30.0
g)	Reduced disparity in participation and quality of education services among regions, gender, social-economic groups, and between education units that are implemented by the government and private institutions		

No.	DEVELOPMENT	TARGETS		
3.	Health			
		Initial Status (2008)	Target in 2014	
	a)	Increased life expectancy (years)	70.7	72.0
	b)	Decreased maternal mortality rate per 100,000 live births	228	118
	c)	Decreased infant mortality rate per 1,000 live births	34	24
	d)	Decreased prevalence of nutrition deficiency (deficient nutrition and malnutrition) by infants (%)	18.4	Less than 15.0
4.	Food			
	a)	Production of paddy	Growth rate of 3.22% per year	
	b)	Production of maize	Growth rate of 10.02% per year	
	c)	Production of soybean	Growth rate of 20.05% per year	
	d)	Production of sugar	Growth rate of 12.55% per year	
	e)	Production of cow meat	Growth rate of 7.3% per year	
5.	Energy			
	a)	Increased capacity of electricity generating stations	3,000 MW per year	
	b)	Increased electrification ratio	Reaching 80% in 2014	
	c)	Increased production of crude oil	Reaching 1.01 million barrel per day in 2014	
	d)	Increased utilization of geothermal power stations	Reaching 5,000 MW in 2014	
6.	Infrastructure			
	a)	Construction of the Trans Sumatra, Java, Kalimantan, Sulawesi, West Nusa Tenggara, East Nusa Tenggara, and Papua infrastructure	Reaching a length of 19,370 km by 2014	

No.	DEVELOPMENT	TARGETS
b)	Construction of an integrated inter-mode and inter-island transportation network, in accordance with the National Transportation System and Multi-mode Transportation Blueprint	Completed in 2014
c)	Completing the construction of the Optic Fiber Network in Eastern Part of Indonesia	Completed before 2013
d)	Repairing the transportation system and network in 4 big cities (Jakarta, Bandung, Surabaya, and Medan)	Completed in 2014

(出所) Ministry of National Development Planning / National Development Planning Agency (BAPPENAS)
 (2010b) Appendices: Regulation of the President of the Republic of Indonesia: Number 5 of 2010
 Regarding the National Medium-Term Development Plan [RPJMN] 2010-2014, pp. I-44 –I-46

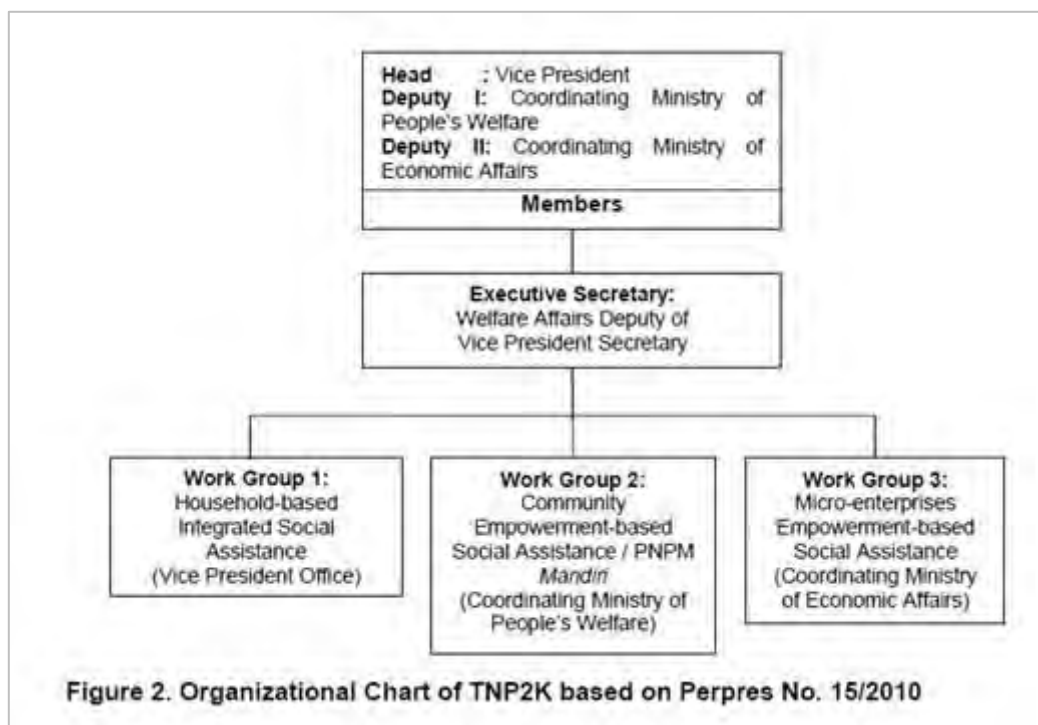
RPJMN における優先項目は、マトリックスに整理されており、具体的な貧困撲滅への取り組みとして、1) 総合的な社会的扶助（特に直接現金給付（Cash Direct Assistance: BLT）や、米購入補助金支給（Raskin）、低所得者対象医療保障（Jamkesmas）、低所得者の児童への奨学金等）、2) 住民エンパワーメント国家プログラム（PNPM）、3) 政府による、銀行への中小企業向け融資保証制度（KUR）の3項目が挙げられ、2014年までの各年度別の予算配分も明示されている⁸。

インドネシア政府は、貧困削減のためのプログラムを関係省庁が個別に実施してきたという問題点を認識しており、2010年2月、貧困削減政策の効果を高める取組みの一環として、貧困削減政策のための国家チームを編成した。これは、副大統領を長とする「国家貧困削減推進チーム（National Team for Poverty Reduction Acceleration : TNP2K）と称されている。TNP2K は、1) 貧困削減政策とプログラムの制定、2) 関係省庁・機関の連携強化、3) モニタリング・評価機能という3つの機能を持っている（図表 12 参照）⁹。

⁸ BAPPENAS (2010) RPJM Book I (E) Matrix, p.I.M-30

⁹ ADB (2010) Review of Government's Poverty Reduction Strategies, Policies, and Programs in Indonesia, p.10

図表 12 国家貧困削減チームの組織図 (2010 年)

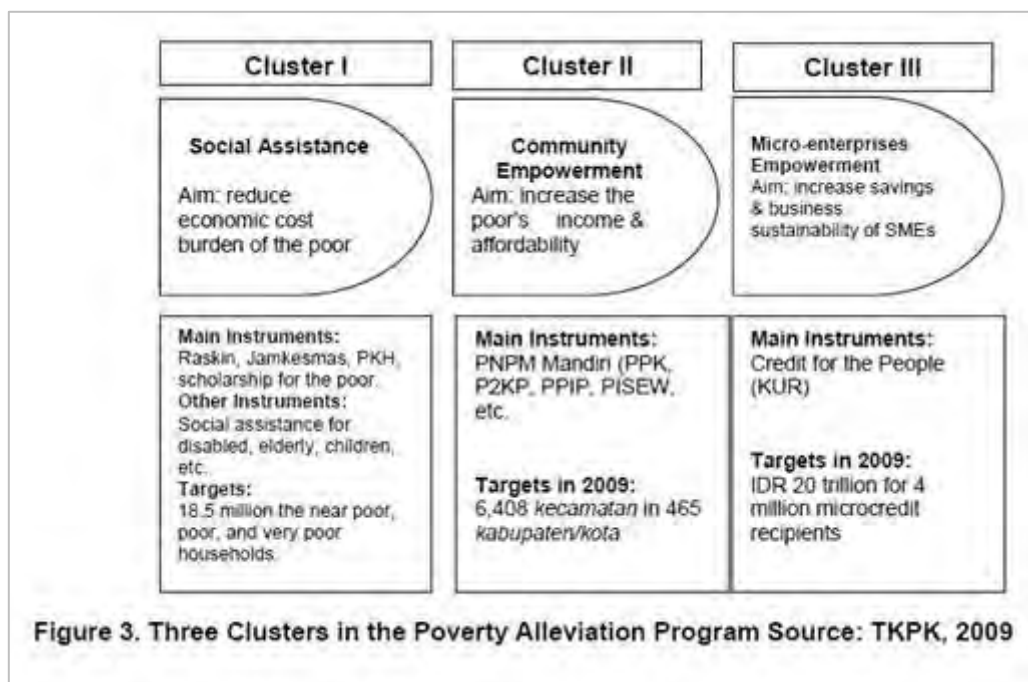


(出所) ADB (2010) Review of Government's Poverty Reduction Strategies, Policies, and Programs in Indonesia, p.10

このような国家組織で策定される貧困削減戦略は、それぞれの目標とターゲットに沿って3つのクラスターに分類できる。1つ目は、貧困層への直接的な社会支援であり、食料、保健、教育、安全な水、衛生等への支援・供給がされるものである。2つ目は貧困地域のコミュニティへの資金貸与により、コミュニティ独自の優先順位に沿った基本的な社会・経済サービスの改善を狙ったものである。3つ目は、貧困層がアクセスしやすい中小企業支援貸付制度である (図表 13 参照)。

これらの貧困削減プログラムのこの10年の変遷は、図表 13 に示したとおりとなっている。

図表 13 インドネシア政府による貧困削減戦略の3つのクラスター (2010年)



(出所)ADB (2010) Review of Government's Poverty Reduction Strategies, Policies, and Programs in Indonesia, p.11

図表 14 インドネシア政府の社会的保護スキームの展開（1998/99-2010 年）

Programs' Classification	Fiscal year												
	1998/1999	1999/2000	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
Subsidized Rice	OPK	OPK	OPK	OPK									
					Raskin	Raskin	Raskin	Raskin	Raskin	Raskin	Raskin	Raskin	Raskin
Social Health Insurance	JPS-BK	JPS-BK	JPS-BK	JPS-BK									
				PKPS-BBM	PKPS-BBM	PKPS-BBM	PKPS-BBM	PKPS-BBM					
								Askeskin	Askeskin	Askeskin	Askeskin		
											Jamkesmas	Jamkesmas	Jamkesmas
Educational Support Fund	JPS-Scholarship	JPS-Scholarship	JPS-Scholarship										
	JPS-DBO	JPS-DBO	JPS-DBO										
				BKM	BKM	BKM	BKM	BKM	BKM				
										BSM	BSM	BSM	BSM
										BOS	BOS	BOS	BOS
Unconditional Cash Transfer								BLT	BLT		BLT	BLT	
Conditional Cash Transfer										PKH	PKH	PKH	PKH

Source: Author's analysis Fitzhugh & Schady (2010); Ministry of Social Affairs (2009); Hastuti et al. (2009); Sumarto, Suryahadi & Bazzi (2008); World Bank (2006); Sparrow (2004); Hastuti & Mansell (2003).

（出所）ADB (2010) Review of Government's Poverty Reduction Strategies, Policies, and Programs in Indonesia, p.13

2011 年の中央政府全体としての貧困対策支援の予算は 25.2 兆ルピア (IDR)¹⁰ (30 億米ドル) で、全体予算の 3.6%にあたる (2006 年は 6.7%)。これらの予算は各省庁の所轄の下、貧困削減プログラムとして実行されている¹¹

それぞれの貧困削減プロジェクトの詳細は、図表 15 及び以下のとおりとなっている。

- 無条件現金給付 (Temporary Unconditional Cash Transfer : BLT) : 食料価格と燃料価格が高騰した際、貧困者を支援するために 2005 年に設置されたセーフティーネットプログラムで、2010 年までの支出は 17 兆 7,000 億から 23 兆 1,000 億 IDR 計上され、9 ヶ月間で 10 万 IDR が 1,870 万世帯に支払われた。恒常的なプログラムではなく、臨時的な支援の位置づけで、社会省が所轄している。BLT はこれまで 2005-2006 年と 2008-2009 年の 2 回実施されたが、課題としては、2005-2006 年実施時の貧困者リストを使用したため、第 1 回でリスト外になった貧困対象者が第 2 回目でも現金支給が行われなかったこと等が挙げられている¹²。
- 米の購入補助 (Rice for the Poor : Raskin) : 村内で貧困世帯と認定された受給資格世帯に対して、米の購入に補助金が支給される制度。1 ヶ月あたり 14kg までは

¹⁰ インドネシア通貨 1IDR (IDR) = 0.00863 円 (JICA 平成 23 年度精算レート)。

http://www.jica.go.jp/announce/manual/form/consul_g/pdf/rate_2011.pdf

¹¹ World Bank Office Jakarta (2011) Targeting the Poor and Vulnerable in Indonesia, p.viii 及び p.4

¹² World Bank Office Jakarta (2011) Targeting the Poor and Vulnerable in Indonesia, p.34

政府の補助金によって低価格で米を購入することができる制度。2010年までの支出は13兆9,250億IDRで食糧調達庁（BULOG）の所轄となっている。しかし、実際には、米購入の補助金が世帯の経済状況に関係なく配分されたことが問題点として指摘されている¹³。

- 低所得者向け医療保障制度（Health for the Poor : Jamkesmas）：2005年に開始された全額公的給付の医療保障制度で、1,820万世帯が対象となっている。2010年の予算は5兆220億IDRで保健省によって運営されている。課題としては、実際の運用において、貧困者の定義が村によって異なっていたり、保険カードが全ての低所得者に配布されていないことなどが挙げられる¹⁴。
- 条件付現金給付（Conditional Cash Transfer : CCT : PKH）：約81万世帯を対象とし、母子保健と初等・中等教育での支給条件のもと、双方の条件を満たした受給世帯に年間現金128万7千IDRを支給している。2010年までの支出は1兆3,000億IDRで社会省が所轄している。
- 学校運営補助（School Operational Assistance : Beasjswa Untuk Siswa Miskia : BOS）：2005年の燃料価格高騰による低所得世帯への影響緩和策として開始され、学校と生徒双方に助成金が支給される。後に世銀との共同で、BOS-KITA（School Operational Assistance – Knowledge Improvement for Transparency and Accountability）として、2009年からの2年間で約20億米ドルの予算プログラムに拡張した。国家教育省が所轄している¹⁵。
- 住民エンパワーメント国家プログラム（PNPM Mandiri）：1998年からの世銀プロジェクトであるKDPを前身とし、中央政府から地方政府への補助金を通じて、コミュニティに資金が配分され、インフラ、経済開発、社会開発といった支援をコミュニティ自らが決定して実施するもの¹⁶。現在6万の村を対象に、年間5万以上のプロジェクトが約20億米ドル規模で実施されている。プロジェクトは大きく、1) 農村部PNPM（旧KDP）、2) 都市部PNPM（旧UPP）、3) 貧困者と障害者支援（Support for Poor and Disadvantaged Areas : SPADA）、4) 農村インフラ支援（Rural Infrastructure Support to PNPM Mandiri : RIS-PNPM）、5) 社会・経済開発プロジェクトのための地域インフラ（Regional Infrastructure for Social and Economic Development Project : RISE）の5つの種類に分けられる¹⁷。PNPMは国家開発計画省（Bappenas）、財務省、国民福祉省、世界銀行などの代表からなる共同運営委員会（Joint Management Committee : JMC）の所轄となっている¹⁸。

¹³ World Bank Office Jakarta（2011）Targeting the Poor and Vulnerable in Indonesia, p.35

¹⁴ World Bank Office Jakarta（2011）Targeting the Poor and Vulnerable in Indonesia, p.35

¹⁵ <http://go.worldbank.org/L7UCJM8LX0>（2012年3月23日アクセス）

¹⁶ <http://go.worldbank.org/PMAHFZYG80>（2012年3月23日アクセス）

¹⁷ <http://pnpm-psf.ning.com/page/pnpm-programs-1>（2012年3月23日アクセス） PNPMのプログラム運営は世銀が実施し、AusAID、USAID、DFID、DANIDA、EU、CIDA等が資金協力を行っている。

¹⁸ <http://pnpm-psf.ning.com/page/joint-management-committee>（2012年3月23日アクセス）

- 政府による、銀行への中小企業向け融資保証制度（KUR）：貧困者が雇用されている中小・零細企業への無担保融資を実施している。KUR は現在 6 行での実施に限定され、顧客も東部ジャワ地域に偏っているため、現在対象銀行の拡大が検討されている¹⁹。所轄はインドネシア中央銀行となっている。
- 貧困者世帯児童向けの奨学金制度（Cash transfer for poor students : Bantuan Siswa Miskin : BSM）：1997 年の経済危機後、貧困者世帯の児童を対象にしたブロックグラント式の奨学金制度が実施され、貧困による児童の就学率の低下を防ぐことに貢献したとされている²⁰。教育省と宗教省（イスラム教育機関を含むため）の所轄により約 460 万人の学生に対し支援が実施された。初等教育では年間約 36 万 IDR、大学教育では年間約 120 万 IDR が支給されている²¹。BSM の問題点としては、最貧困の世帯には BSM のシステムが知られていないこと、その結果、最貧困層の世帯以外の世帯児童が BSM の恩恵を受けていることが指摘されている²²。

19

<http://gwwweb.jica.go.jp/km/ProjectView.nsf/3834e8008371f18049256caf000aeb5e/c7ca99bd37762e54492576f6003b20b1?OpenDocument> （2012 年 3 月 23 日アクセス）

²⁰ ブロックグラントとは、政府が用途を細かく決めて地方自治体に補助金を交付するのではなく、補助金の総額だけを決め、用途は地方自治体の裁量にまかせる方式の補助金を意味する。World Bank Office Jakarta (2011) Targeting the Poor and Vulnerable in Indonesia, p.14

²¹ World Bank Office Jakarta (2011) Targeting the Poor and Vulnerable in Indonesia, p.22

²² World Bank Office Jakarta (2011) Targeting the Poor and Vulnerable in Indonesia, p.38

図表 15 インドネシアにおける主要な貧困削減プロジェクト（2010年）

Name	Transfer type	Target group	2010 target number of recipients	2010 coverage	2010 benefit level	Total 2010 budgeted expenditures (Rp Billions)	Key executing agency
BLT*	Cash	Poor & near-poor households	18.7m households (HH)	National	IDR 100,000 per month for 9 months	17,700 – 23,100**	Ministry of Social Affairs (Kemensos)
Raskin	Subsidized Rice	Poor & near-poor households	17.5m HH	National	14 kg rice per month	13,925	Bureau of Logistics (Bulog)
Jamkesmas	Health service fees waived	Poor & near-poor households	18.2m HH	National	Varies depending on utilization	5,022	Ministry of Health (Kemenkes)
BSM	Cash & Conditions	Students from poor households	4.6m students	National, but not full scale	Rp. 561,759 per year	2,904	Ministry of National Education (Kemdiknas) & Ministry of Religious Affairs (Kemenag)
PKH	Cash & Conditions	Very poor households	810,000 HH	Pilot	IDR 1,287,000 per year	1,300	Kemensos

Source: World Bank (2012d) *During last usage in 2008-09 ** Total expenditure for nine months across 2008 and 2009 (17,700 bn) and for twelve months across 2005 and 2006 (23,100 bn).

(出所)World Bank Office Jakarta (2011) Targeting the Poor and Vulnerable in Indonesia, p.22

インドネシアにおけるこうした貧困削減プログラムは、後述するインドネシア独自の貧困線以下の層のみならず、その貧困線を少し越えた「貧困線以上月額所得 25 万 IDR 以下」の人々を含めた支援を行っている。しかし、コミュニティーベースでのプログラムにおいては、支援対象者の選定に、郡・村・コミュニティーのリーダーの判断が加えられたり、選定基準が地域ごとに異なっていたため、実際に貧困の状態にある人々が的確に選定されなかったとの問題点も指摘されている。また、インドネシアでは農業人口が多いため、貧困線付近に人口が集中しているといった特性もあり、プログラム・プロジェクトの対象基準の設定やカバレッジ等、プログラム実施には十分な配慮が必要とされている²³。

上記の理由から、政府は現在、貧困者ターゲティングの改善に向けた取組み（PKH、Jamkesmas、Raskin の支給にあたってのデータベースの統合）等を実施している。

²³ World Bank Office Jakarta (2011) Targeting the Poor and Vulnerable in Indonesia, p.viii 及び p.ix

III. 所得貧困による分析

1. 貧困線とデータ

インドネシアにおいては、国家中央統計局（BPS: Badan Pusat Statistik）が実施する社会経済調査（SUSENAS: Survei Sosial Ekonomi Nasional）の²⁴のデータに基づいた貧困線と貧困線以下人口を設定している。ここでの「貧困線」とは、「一人1日2,100キロカロリー一相当の食糧及び生活必需品（衣服・住居・教育・交通費等）を得るのに最低限必要な支出額」と定義され、都市部と農村部の2つの基準が設定されている²⁵。

2010年の貧困線は、都市部で1人当たり月額所得23万2,989IDR、農村部では同19万2,354IDRに設定されており、インドネシアにおいては、この貧困線以下の所得を得ている人々を貧困層と定義している（時系列及び都市・農村部での貧困線のデータ、貧困人口、貧困者割合に関しては図表16を参照）。

インドネシア全体の貧困率は、1999年の23.4%から2011年の12.5%へと減少している一方で、最貧層の約半数は1日1万3,400IDR以下の所得で生活している²⁶。また、インドネシアでは貧困線付近の所得層が多いことから、主要な貧困削減プログラムでの受給対象者は、貧困線の月額所得よりも少し高めの25万IDRを基準値として用いている²⁷。

この「貧困線付近の人々」の存在を、2006年の世銀のレポートでは、churning²⁸と表現し、貧困状態の流動性を表している。上記のような理由から、世界銀行では、インドネシアにおいては「困線付近の人々が経済的に不安定な状況に置かれている状況を鑑み、貧困政策の受益者として1日2米ドルの消費額に基準を広げることが妥当であるとしている²⁹（図表17参照）。

²⁴ インドネシア政府の社会経済調査（SUSENAS）は、世界銀行の支援を受けて実施され、世界銀行もSUSENASにおける貧困線を採用している。

²⁵ Ministry of National Development Planning / National Development Planning Agency（BAPPENAS）（2010a） Report on the Achievement of the Millennium Development Goals Indonesia 2010, p.17

²⁶ World Bank Office Jakarta（2011） Targeting the Poor and Vulnerable in Indonesia, p.viii

²⁷ Ministry of National Development Planning / National Development Planning Agency（BAPPENAS）（2010a） Report on the Achievement of the Millennium Development Goals Indonesia 2010, p.17

²⁸ 直訳としては「かき混ぜる」という意味であるが、ここでは「貧困者」と「非貧困者」への切り替わりが頻繁に起こっていることを意味している。

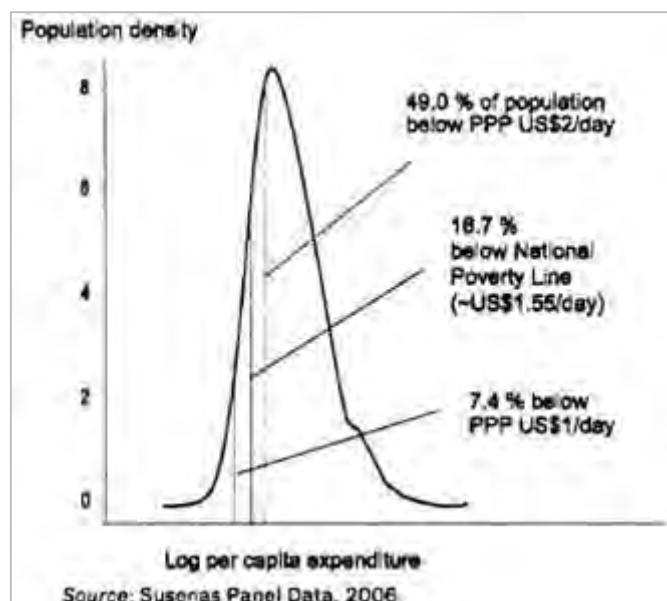
²⁹ World Bank（2006） Indonesia: Making the New Indonesia: Work for the Poor, p.25

図表 16 インドネシア中央統計局（BPS）による国家貧困線の推移（1976-2010年）

Tahun Year	Garis Kemiskinan Poverty Line (rupiah / rupiah)		Jumlah Penduduk Miskin Number of Poor People (juta / million)			Persentase Penduduk Miskin Percentage of Poor People		
	Kota Urban	Desa Rural	Kota Urban	Desa Rural	Kota+Desa Urban+Rural	Kota Urban	Desa Rural	Kota+Desa Urban+Rural
(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)
1976	4 522	2 849	10,00	44,20	54,20	38,80	40,40	40,10
1978	4 969	2 981	8,30	38,90	47,20	30,80	33,40	33,30
1980	6 831	4 449	9,50	32,80	42,30	29,00	28,40	28,60
1981	9 777	5 877	9,30	31,30	40,60	28,10	26,50	26,90
1984	13 731	7 746	9,30	25,70	35,00	23,10	21,20	21,60
1987	17 381	10 294	9,70	20,30	30,00	20,10	16,10	17,40
1990	20 614	13 295	9,40	17,80	27,20	16,80	14,30	15,10
1993	27 905	18 244	8,70	17,20	25,90	13,40	13,80	13,70
1996	38 246	27 413	7,20	15,30	22,50	9,70	12,30	11,30
1996	42 032	31 366	9,42	24,59	34,01	13,39	19,78	17,47
1998	96 959	72 780	17,60	31,90	49,50	21,92	25,72	24,23
1999	92 409	74 272	15,64	32,33	47,97	19,41	26,03	23,43
2000	91 632	73 648	12,30	26,40	38,70	14,60	22,38	19,14
2001	100 011	80 382	8,60	29,30	37,90	9,76	24,84	18,41
2002	130 499	96 512	13,30	25,10	38,40	14,46	21,10	18,20
2003	138 803	105 888	12,20	25,10	37,30	13,57	20,23	17,42
2004	143 455	108 725	11,40	24,80	36,10	12,13	20,11	16,66
2005	150 799	117 259	12,40	22,70	35,10	11,68	19,98	15,97
2006	174 290	130 584	14,49	24,81	39,30	13,47	21,81	17,75
2007	187 942	146 837	13,56	23,61	37,17	12,52	20,37	16,58
2008	204 896	161 831	12,77	22,19	34,96	11,65	18,93	15,42
2009	222 123	179 835	11,91	20,62	32,53	10,72	17,35	14,15
2010	232 989	192 354	11,10	19,93	31,02	9,87	16,56	13,33

(出所)BPS (2010) Statistical Year Book of Indonesia 2010, p.183

図表 17 インドネシアにおける貧困者層の消費分布図（2006年）



(出所)World Bank (2006) Indonesia: Making the New Indonesia: Work for the Poor, p.vi

2. 貧困の状況—貧困率の分析

図表 18 に示したとおり、インドネシアの貧困率及び貧困人口は 1998 年以降徐々に減少している。1997 年の経済危機の影響から、1998 年の貧困率は 24.23% (4,950 万人) と高い率を示していたが、2002 年には 18.2% (3,840 万人) に減少し、2005 年には 15.97% (3,510 万人) と減少傾向となった。2005 年の政府の石油価格の引き上げ³⁰による日用品の物価高騰から、2006 年には 17.75% (3,930 万人) とその値が若干増加したが、2011 年には 12.49% (3,253 万人) と減少している³¹。

図表 18 都市と農村における貧困の割合 (1998-2011 年)

Year	Number of Poor (Millions)			Percentage of Poor		
	Urban	Rural	Urban+Rural	Urban	Rural	Urban+Rural
(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)
1998	17.60	31.90	49.50	21.92	25.72	24.23
1999	15.64	32.33	47.97	19.41	26.03	23.43
2000	12.30	26.40	38.70	14.60	22.38	19.14
2001	8.60	29.30	37.90	9.76	24.84	18.41
2002	13.30	25.10	38.40	14.46	21.10	18.20
2003	12.20	25.10	37.30	13.57	20.23	17.42
2004	11.40	24.80	36.10	12.13	20.11	16.66
2005	12.40	22.70	35.10	11.68	19.98	15.97
2006	14.49	24.81	39.30	13.47	21.81	17.75
2007	13.56	23.61	37.17	12.52	20.37	16.58
2008	12.77	22.19	34.96	11.65	18.93	15.42
2009	11.91	20.62	32.53	10.72	17.35	14.15
2010	11.10	19.93	31.02	9.87	16.56	13.33
2011	11.05	18.97	30.02	9.23	15.72	12.49

(出所)BPS (2011) Statistics Indonesia 2010, p.61

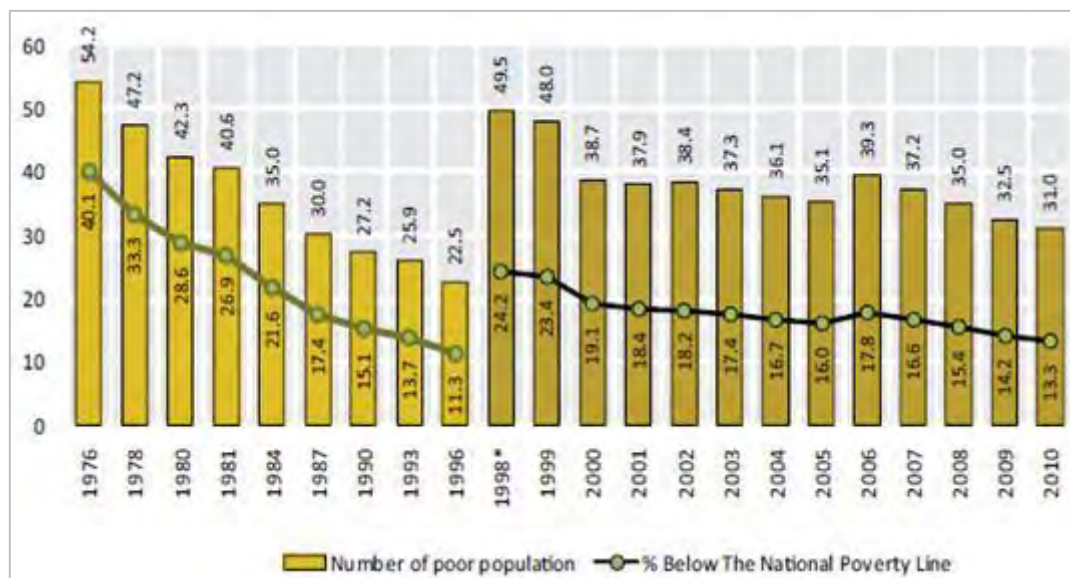
さらに長期的な視点で見ても、インドネシアの貧困人口は減少傾向が見られるが (図表 19 参照)、前述の通りインドネシアでは貧困線をわずかにしか上回っていない貧困線付近の人々 (near poor) が 1,260 万人に上るため、経済的なショックによって容易に貧困線以下に陥ってしまうという状態にある。2010 年の貧困者の半分以上が、2010 年に初めて貧困線以下となったこと、過去 3 年間で人口の 4 分の 1 の人々が 1 度は貧困状態に陥ったことが

³⁰ 原油の輸出国だったインドネシアが国内消費増加から原油の輸入国に転じたことから、それまで政府の統制により低価格に抑えられていた石油価格を上昇せざるを得なくなった。詳細は、アジア経済研究所ウェブサイトを参照。<http://www.ide.go.jp/Japanese/Research/Region/Asia/Radar/20080605.html> (2012 年 3 月 23 日アクセス)

³¹ BPS (2011) Statistics Indonesia 2010, p.60

あること、また人口の43%は少なくとも1度は貧困線付近の数値を下回ったことがあるという状況からも、インドネシアにおける貧困線付近の人々の脆弱性が示されている³²。

図表 19 インドネシアにおける長期の貧困削減状況の推移（1976-2010年）



(注) 1998年で統計手法の変更があったため、数値が大きく異なっている³³。

(出所) Ministry of National Development Planning / National Development Planning Agency (BAPPENAS)
 (2010a) *Report of the Achievement of the Millennium Development Goals Indonesia 2010*, p.19

地域別に見てみると、農村部の貧困人口は都市部の2倍近い数に上り³⁴、特にイリアンジャヤ州、北マルク州、東ヌサ・トゥンガラ州、スラウェシ島といった東部の地方島嶼部及び、アチェ、ランポン州等での貧困率が高い傾向が見られる（地図 2 及び図表 20 インドネシアにおける貧困線以下の人口の割合（州別、2010年）参照）。

³² World Bank Office Jakarta (2011) Targeting the Poor and Vulnerable in Indonesia, p. viii

³³ 1998年の統計手法の変更の詳細はオリジナルデータにも記載はない。ただし、UNESCAPの文書に、「1998年の経済危機を受け、貧困率の推計の基となっている家計消費のデータや、推計方法自体を変更した」との記載がある。http://www.unescap.org/stat/meet/povstat/pov7_ido.pdf (2012年3月23日アクセス)

³⁴ OECD (2010) Economic Importance of Agriculture for Sustainable Development and Poverty Reduction: Findings from a Case Study of Indonesia, p.17

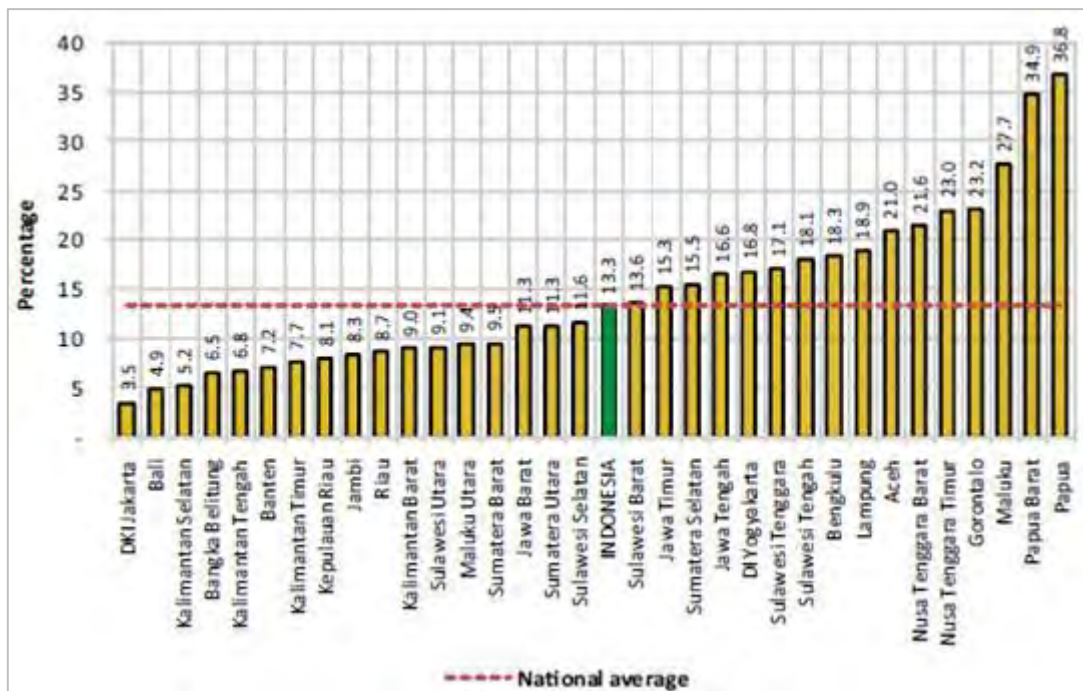
地図 2 インドネシアの地域別貧困率（2009 年）



（出所） OECD（2010） Economic Importance of Agriculture for Sustainable Development and Poverty Reduction: Findings from a Case Study of Indonesia, p.4

州ごとの貧困率は、図表 20 のとおりである。2010 年のデータでは、全国 33 の州のうち、全国平均の貧困率である 13.3% を上回り、特に全国平均の値の倍以上の数値となっている、パプア州（36.80%）、西パプア州（34.9%）、マルク州（27.74%）では貧困者の割合が高い。スマトラ島やジャワ島の州でも全国平均を上回っている³⁵。全国平均値を大きく下回っている州は、ジャカルタ州（3.5%）、バリ州（4.9%）、南カリマンタン州（5.2%）となっている。

図表 20 インドネシアにおける貧困線以下の人口の割合（州別、2010 年）



³⁵ Ministry of National Development Planning / National Development Planning Agency (BAPPENAS) (2010a) Report on the Achievement of the Millennium Development Goals Indonesia 2010, pp.18-19

(出所) Ministry of National Development Planning / National Development Planning Agency (BAPPENAS)
 (2010a) *Report of the Achievement of the Millennium Development Goals Indonesia 2010*, p.19

3. 貧困ギャップ率の分析

貧困の深刻度を示す貧困ギャップ率は、図表 21 に示したように、1996 年では全国で 3.25、都市部では 2.58、農村部では 3.62 と、農村部より都市部の方が若干低い値となっている。1997 年の経済危機後の 1999 年には、ギャップ率が上昇すると共に、農村部の上昇が著しく、農村部における貧困の深刻度が高かったことを示している。この値は、近年徐々に減少傾向にあり、2009 年の全国値である 2.51 から、2010 年には 2.2 へと減少傾向にある。よって、貧困線を下回る消費をしている貧困層の貧困レベルは改善していると言える³⁶。

図表 21 貧困ギャップ率・ジニ係数・消費支出の割合 (1996-2009 年) (再掲)

	Poverty gap urban	Poverty gap rural	Poverty gap national	Gini coefficient	Percentage household expenditure for food
1996	2.58	3.62	3.25	0.33	n.a.
1999	3.52	4.84	4.18	0.31	62.94
2002	2.59	3.34	3.01	0.33	58.47
2003	2.55	3.53	3.13	0.32	56.89
2004	2.18	3.43	2.89	0.32	54.59
2005	n.a.	n.a.	2.94	0.36	51.37
2006	n.a.	n.a.	3.43	0.33	53.01
2007	2.15	3.78	2.99	0.36	49.24
2008	2.07	3.42	3.37	0.35	50.17
2009	1.91	3.05	2.51	0.37	50.62

Source: BPS several years

(出所) OECD (2010) *Economic Importance of Agriculture for Sustainable Development and Poverty Reduction: Findings from a Case Study of Indonesia*, p.20

図表 22 は、2010 年 3 月から 2011 年の 3 月までの貧困ギャップ率及び二乗貧困ギャップ率の推移が示されており、貧困ギャップ率は、2010 年の 2.21 から 2011 年の 2.08 と減少していることが分かる。また、農村部の方が、都市部よりも貧困ギャップ率が高いことも示されている³⁷。

³⁶ Ministry of National Development Planning / National Development Planning Agency (BAPPENAS) (2010a) *Report on the Achievement of the Millennium Development Goals Indonesia 2010*, p.17

³⁷ BPS (2011) *Statistics Indonesia 2010*, p.64

図表 22 地域別貧困ギャップ率と二乗貧困ギャップ比率 (2010-2011 年)

Year	Urban	Rural	Urban+Rural
(1)	(2)	(3)	(4)
Poverty Gap Index (P_1)			
March 2010	1.57	2.80	2.21
March 2011	1.52	2.63	2.08
Poverty Severity Index (P_2)			
March 2010	0.40	0.75	0.58
March 2011	0.39	0.70	0.55

(出所)BPS (2011) Statistics Indonesia: BPS Strategic Data, p.64

4. 格差の分析—ジニ係数・所得階層の分析

ジニ係数について見てみると、経済危機直後の 1999 年には 0.31 であったものが、その後若干の上昇傾向を示しながら、2009 年には 0.37 に達している。つまりこの 10 年間で格差は拡大しており、図表 23 に示したように、都市部に比べて農村部の貧困ギャップ率が高いという事実とも整合的である。

図表 23 貧困ギャップ率・ジニ係数・消費支出の割合 (1996-2009 年) (再掲)

	Poverty gap urban	Poverty gap rural	Poverty gap national	Gini coefficient	Percentage household expenditure for food
1996	2.58	3.62	3.25	0.33	n.a.
1999	3.52	4.84	4.18	0.31	62.94
2002	2.59	3.34	3.01	0.33	58.47
2003	2.55	3.53	3.13	0.32	56.89
2004	2.18	3.43	2.89	0.32	54.59
2005	n.a.	n.a.	2.94	0.36	51.37
2006	n.a.	n.a.	3.43	0.33	53.01
2007	2.15	3.78	2.99	0.36	49.24
2008	2.07	3.42	3.37	0.35	50.17
2009	1.91	3.05	2.51	0.37	50.62

Source: BPS several years.

(出所) OECD (2010) Economic Importance of Agriculture for Sustainable Development and Poverty Reduction: Findings from a Case Study of Indonesia, p.20

図表 24 では、2007 年から 2009 年の消費階層別³⁸のジニ係数が示されている。都市部においては、2007 年から 2009 年にかけて、全人口の 40%の下位消費者層が、全体の消費の約 19%前後を占めるにとどまっている一方で、上位 20%の消費者層が、全体消費の 43%を

³⁸ 消費階層別でのジニ係数は、所得階層別の係数よりも、より実際の格差を反映しやすいと言われている (家計調査の際に、所得よりも消費の方が正確なデータを把握しやすいため)。

占めているという状況となっている。農村部では都市部よりもより平等な傾向が示され、ジニ係数も都市部より低い値が示されている。時系列ではこの 3 年間ではほとんど変化は見られないが、全国の数値では若干係数が低下していることがわかる。

図表 24 消費階層別のジニ係数 (2007-2009 年)

[Diolah dari Hasil Survei Sosial Ekonomi Nasional (Suseenas) Panel. BPS / Based on Panel National Socio Economic Survey, BPS- StatisticsIndonesia]

Daerah Region	Tahun Year	40 % Berpengeluaran Rendah 40 % Low Expenditure	40 % Berpengeluaran Sedang 40 % Medium Expenditure	20 % Berpengeluaran Tinggi 20 % High Expenditure	Indeks Gini Gini Index
(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)
Kota Urban	2007	19,08	37,13	43,80	0,37
	2008	18,55	37,00	44,45	0,37
	2009	19,93	36,89	43,18	0,37
Desa Rural	2007	22,00	37,94	40,05	0,30
	2008	22,06	38,58	39,36	0,30
	2009	23,30	38,58	38,12	0,29
Kota+Desa Urban+Rural	2007	18,74	36,51	44,75	0,38
	2008	18,72	36,43	44,86	0,37
	2009	21,22	37,54	41,24	0,37

Catatan / Note: Dihitung dengan menggunakan data individu bukan data kelompok pengeluaran seperti pada tahun 1996-1999
Calculated with individual data, not expenditure group data as used in 1996-1999 methodologies

(出所) BPS (2011) Statistical Year Book of Indonesia, p.477

図表 25 州別・都市部・農村部別のジニ係数（2002-2006年）

	2002			2003			2004			2005			2006		
	Urban	Rural	Total	Urban	Rural	Total	Urban	Rural	Total	Urban	Rural	Total	Urban	Rural	Total
National	0.339	0.254	0.331	0.316	0.253	0.311	0.323	0.261	0.322	0.371	0.295	0.363	0.349	0.281	0.342
Nanggroe Aceh	0.246	NA	0.246	0.281	0.212	0.283	0.301	0.231	0.276	NA	NA	NA	0.318	0.262	0.307
Sumatera Utara	0.274	0.229	0.274	0.272	0.274	0.266	0.265	0.243	0.269	0.315	0.272	0.314	0.297	0.245	0.287
Sumatera Barat	0.271	0.242	0.272	0.261	0.149	0.265	0.285	0.242	0.286	0.310	0.288	0.316	0.299	0.275	0.303
Riau	0.297	0.227	0.295	0.271	0.487	0.296	0.288	0.250	0.301	0.332	0.284	0.323	0.312	0.257	0.305
Jambi	0.276	0.252	0.255	0.256	0.131	0.242	0.263	0.215	0.239	0.323	0.278	0.307	0.335	0.257	0.293
Sumatera Selatan	0.297	0.211	0.283	0.159	0.151	0.250	0.258	0.229	0.260	0.310	0.250	0.289	0.342	0.244	0.307
Bengkulu	0.285	0.258	0.301	0.274	0.186	0.271	0.297	0.222	0.290	0.351	0.253	0.307	0.323	0.242	0.292
Lampung	0.311	0.246	0.259	0.319	3.122	0.288	0.302	0.236	0.283	0.409	0.281	0.356	0.314	0.283	0.310
Kep. Bangka Belitung	0.275	0.199	0.406	0.236	0.113	0.237	0.253	0.241	0.260	0.307	0.304	0.309	0.277	0.239	0.270
Kepulauan Riau	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	0.327	0.292	0.343	0.344	0.244	0.349
DKI Jakarta	0.406	NA	0.305	0.323	NA	0.321	0.371	NA	0.371	0.406	NA	0.406	0.399	NA	0.399
Jawa Barat	0.308	0.233	0.289	0.300	0.745	0.296	0.309	0.257	0.303	0.347	0.269	0.346	0.331	0.266	0.345
Jawa Tengah	0.300	0.236	0.377	0.276	0.249	0.269	0.278	0.234	0.278	0.313	0.259	0.306	0.298	0.249	0.297
DI Yogyakarta	0.389	0.268	0.308	0.346	0.185	0.351	0.380	0.264	0.385	0.395	0.304	0.410	0.358	0.285	0.370
Jawa Timur	0.317	0.254	0.324	0.292	0.261	0.285	0.294	0.243	0.297	0.347	0.273	0.335	0.316	0.273	0.324
Banten	0.302	0.218	0.292	0.302	0.225	0.307	0.284	0.217	0.301	0.446	0.236	0.434	0.310	0.262	0.329
Bali	0.305	0.237	0.285	0.277	0.268	0.268	0.270	0.233	0.267	0.331	0.273	0.322	0.322	0.274	0.320
Nusa Tenggara Barat	0.301	0.246	0.275	0.296	0.192	0.278	0.296	0.259	0.280	0.352	0.279	0.331	0.330	0.279	0.318
Nusa Tenggara Timur	0.276	0.230	0.313	0.261	0.194	0.256	0.294	0.243	0.289	0.356	0.279	0.339	0.362	0.273	0.343
Kalimantan Barat	0.331	0.244	0.264	0.314	0.158	0.293	0.300	0.242	0.296	0.329	0.262	0.316	0.311	0.261	0.301
Kalimantan Tengah	0.266	0.238	0.298	0.243	0.223	0.241	0.258	0.231	0.257	0.298	0.238	0.271	0.285	0.231	0.260
Kalimantan Selatan	0.290	0.261	0.315	0.305	0.122	0.290	0.282	0.247	0.290	0.318	0.287	0.325	0.321	0.259	0.317
Kalimantan Timur	0.314	0.243	0.285	0.324	0.213	0.310	0.345	0.304	0.340	0.353	0.309	0.354	0.346	0.281	0.347
Sulawesi Utara	0.263	0.255	0.291	0.293	0.521	0.296	0.240	0.218	0.261	0.296	0.310	0.324	0.276	0.263	0.291
Sulawesi Tengah	0.335	0.247	0.272	0.285	0.219	0.256	0.286	0.270	0.295	0.314	0.278	0.308	0.372	0.275	0.337
Sulawesi Selatan	0.282	0.232	0.277	0.281	1.219	0.261	0.296	0.242	0.277	0.347	0.270	0.315	0.324	0.273	0.317
Sulawesi Tenggara	0.272	0.254	0.243	0.277	0.209	0.269	0.273	0.251	0.278	0.322	0.296	0.323	0.327	0.265	0.314
Gorontalo	0.254	0.233	0.223	0.236	0.171	0.295	0.268	0.272	0.315	0.377	0.308	0.364	0.308	0.286	0.321
Sulawesi Barat	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	0.288	0.311	0.310
Maluku	0.232	0.196	0.228	0.222	0.139	0.240	0.216	0.222	0.248	0.298	0.261	0.286	0.269	0.251	0.293
Maluku Utara	0.220	0.197	0.223	0.268	0.115	0.284	0.201	0.210	0.266	0.313	0.260	0.317	0.269	0.227	0.290
Irian Jaya Barat	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	0.258	0.246	0.290
Papua	0.227	0.228	0.228	0.261	0.166	0.339	0.265	0.310	0.324	0.331	0.361	0.408	0.292	0.312	0.362

(出所) Hartono and Irawan (2011) Decentralization Policy and Equality: A Theil Analysis of Indonesian Income Inequality, *European Journal of Economics, Finance and Administrative Sciences*, Issue 29, p.44

IV. 所得貧困以外による分析

1. HDI による経年変化の分析と地域比較

1980 年以降の人間開発指標（HDI）の変化を示したものが図表 26、図表 27、図表 28 となっている。全体的な傾向として、HDI の値は順調に改善しており、人々の生活状況が改善していることが示されている。

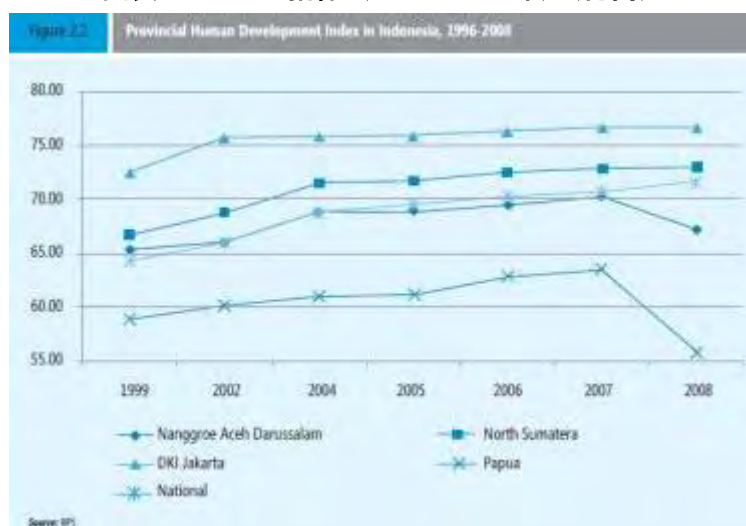
図表 26 インドネシア人間開発指標（HDI）の推移（1980-2011 年）

Year	Indonesia
2011	0.617
2010	0.613
2009	0.607
2008	0.598
2007	0.591
2006	0.579
2005	0.572
2000	0.543
1995	0.527
1990	0.481
1985	0.460
1980	0.423

(出所) UNDP ウェブサイト 国別人間開発指標「インドネシア」

<http://hdrstats.undp.org/en/countries/profiles/IDN.html> (2012/2/15 アクセス)

図表 27 HDI 指標（1996-2008 年）（再掲）



(出所) UNDP (2010) Provincial Human Development Report Aceh 2010, p.13

http://hdr.undp.org/en/reports/national/asiathepacific/indonesia/NHDR_Aceh_2010_English.pdf

(2012/3/23 アクセス)

図表 28 HDI 指標（州別：2004-2008 年）（再掲）

[Diolah dari Hasil Survei Sosial Ekonomi Nasional (Suseenas), Sensus Penduduk (SP) 2000 dan Survei Penduduk Antar Sensus (Supas) 2005, BPS / Based on National Socio Economic Survey, 2000 Population Census and 2005 intercensal Population Census, BPS - Statistics Indonesia]

Provinsi Province	2004	2005	2006	2007	2008
(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)
Aceh	68,7	69,0	69,4	70,3	70,76
Sumatera Utara	71,4	72,0	72,5	72,8	73,29
Sumatera Barat	70,5	71,2	71,7	72,2	72,96
Riau	72,2	73,6	73,6	74,6	75,09
Kepulauan Riau	70,8	72,2	72,8	73,7	74,18
Jambi	70,1	71,0	71,3	71,5	71,99
Sumatera Selatan	69,6	70,2	71,1	71,4	72,05
Kepulauan Bangka Belitung	69,6	70,7	71,2	71,6	72,19
Bengkulu	69,9	71,1	71,3	71,6	72,14
Lampung	68,4	68,8	69,4	69,8	70,30
DKI Jakarta	75,8	76,1	76,3	76,6	77,03
Jawa Barat	69,1	69,9	70,3	70,7	71,12
Banten	67,9	68,8	69,1	69,3	69,70
Jawa Tengah	68,9	69,8	70,3	70,9	71,60
DI Yogyakarta	72,9	73,5	73,7	74,2	74,88
Jawa Timur	66,8	68,4	69,2	69,8	70,38
Bali	69,1	69,8	70,1	70,5	70,98
Nusa Tenggara Barat	60,6	62,4	63,0	63,7	64,12
Nusa Tenggara Timur	62,7	63,6	64,8	65,4	66,15
Kalimantan Barat	65,4	66,2	67,1	67,5	68,17
Kalimantan Tengah	71,7	73,2	73,4	73,5	73,88
Kalimantan Selatan	66,7	67,4	67,8	68,0	68,72
Kalimantan Timur	72,2	72,9	73,3	73,8	74,52
Sulawesi Utara	73,4	74,2	74,4	74,7	75,16
Gorontalo	65,4	67,5	68,0	68,8	69,29
Sulawesi Tengah	67,3	68,5	68,9	69,3	70,09
Sulawesi Selatan	67,8	68,1	68,8	69,6	70,22
Sulawesi Barat	64,4	65,7	67,1	67,7	68,55
Sulawesi Tenggara	66,7	67,5	67,8	68,3	69,00
Maluku	69,0	69,2	69,7	70,0	70,38
Maluku Utara	66,4	67,0	67,5	67,8	68,18
Papua	60,9	62,1	62,8	63,4	64,00
Papua Barat	63,7	64,8	66,1	67,3	67,95
Indonesia	68,7	69,6	70,1	70,6	71,17

(出所)BPS (2010) Indonesia Statistical Yearbook of Indonesia 2010, p.189

2. MDG 指標の分析

2000 年以降の 10 年間で、インドネシアは高い経済成長を達成し、貧困率が低下しているが、保健と教育に関する指標の一部については、改善が進んでいない状況にある。2010 年までの MDG 達成状況は以下のとおりとなっている³⁹。

³⁹ 本文以下ともに、Ministry of National Development Planning / National Development Planning Agency (BAPPENAS) (2010a) Report on the Achievement of the Millennium Development Goals Indonesia 2010,

(1) 2015年までの目標値を達成できた指標

目標値を達成できた指標は、MDG1（極度の貧困と飢餓の撲滅）、MDG3（ジェンダー平等推進と女性の地位向上）、MDG6（HIV/エイズ、マラリア、その他の疾病の蔓延の防止）の一部となっている（図表 8 MDG 指標（1999,2007,2009年）参照）。

- ・ MDG1: 1日1米ドル以下の所得者層の割合が、1990年の20.6%から2008年には5.9%に減少し、MDG目標値である10.3%減を達成した。
- ・ MDG3: 初等・中等教育における女子の就学率の割合と、15-24歳の女性の識字率が改善した。
- ・ MDG6: 結核の罹病率は、1990年に443件（10万人当たり）から2009年には244件に減少し、目標値を達成した。ただし、HIV/AIDSへの取り組みは引き続き必要とされている。

(2) 2015年の達成が期待される指標

達成が期待される水準にある指標は、MDG1、MDG2（初等教育の完全普及の達成）、MDG3、MDG4（乳幼児死亡率の削減）、MDG8（開発のためのグローバルなパートナーシップの推進）の一部である。

- ・ MDG1: 5歳未満の児童のうち、低体重児童数の割合が1989年の31%から2007年には18.4%となり、ほぼ半減した。2015年には15.5%になると予想されている。
- ・ MDG2: 初等教育での純就学率は100%に近づきつつあり、識字率は2009年には99.47%となった。
- ・ MDG3: 中等・高等教育における男子生徒に対する女子生徒の純就学率は、2009年の中等教育で96.16%、高等教育で102.95%となり、2015年には100%に達すると予想されている。
- ・ MDG4: 5歳未満の児童死亡率は、1991年の97件（1,000件当たり）から2007年の44件と約半減し、2015年には32件まで減少すると予想されている。
- ・ MDG8: 対GDP債務率は、1996年の24.6%から2009年には10.9%に減少し、債務返済比率は1996年の51%から2009年には22%と大幅に低下した。

(3) 更なる取組みが必要とされる指標

他方、多少の前進が見られたものの、2015年までの更なる取組みが必要とされる指標は、MDG1、MDG5（妊産婦の健康の改善）、MDG6、MDG7（環境の持続可能性確保）の一部である。

- ・ MDG1: 貧困線以下の人口割合を2010年の13.33%から、2014年には8-10%とすることを目標としている。

- MDG5：妊産婦死亡率は、1991年の390人（10万人当たり）から2007年には228人と減少したが、他の発展途上国と比較しても依然高い傾向にあり⁴⁰、2015年には102人とすることを目標としている。特に、保健の知識を有する人材に出産時のケアを提供してもらった妊婦の割合が低いことが課題となっている（図表29参照）。
- MDG6：特に麻薬常習者や売春に関わる人々の間での、HIV/エイズ感染者の割合が増加している（HIV/エイズ患者の割合は、2006年の8,194人（10万人当たり）から2009年には19,973人と増加している⁴¹）。州別のエイズ患者の人数は図表30を参照。
- MDG7：インドネシアでは温室効果ガス排出レベルが高いため、森林面積を増加させ、違法な伐採を取り締まることにより、次の20年間で少なくとも26%以上のCO²排出量を削減するという政策枠組みを設定している。また、安全な飲み水へのアクセスは47.73%、公衆衛生サービスへのアクセスは51.19%の世帯しかアクセスできていない状況となっている。

図表 29 出産時に保健技術を有する人材にケアされた妊婦の割合（州別、2009年）

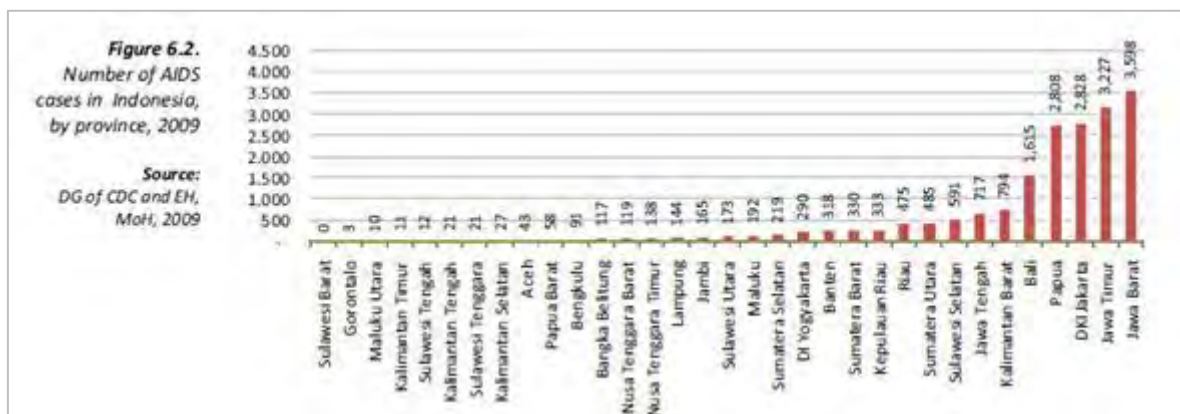


(出所) Ministry of National Development Planning / National Development Planning Agency (BAPPENAS) (2010a) Report of the Achievement of the Millennium Development Goals Indonesia 2010, p.68

⁴⁰ Ministry of National Development Planning / National Development Planning Agency (BAPPENAS) (2010a) Report of the Achievement of the Millennium Development Goals Indonesia 2010, p.67

⁴¹ Ibid, p.80

図表 30 エイズ患者の人数（州別、2009 年）



(出所) Ministry of National Development Planning / National Development Planning Agency (BAPPENAS) (2010a) *Report of the Achievement of the Millennium Development Goals Indonesia 2010*, p.80

MDG への目標値に対して、インドネシア政府は総体的に順調に取組みがなされていると自己評価しており、その理由として、グッドガバナンスの存在、コミュニティでのパートナーシップの関係が醸成されていること、**Pro-poor Growth**（貧困削減に資する経済成長）達成のための総合的なアプローチの実施、公的サービスの向上、資源分配の際のコーディネーションの改善、不平等を軽減するための効果的な分権化と人々へのエンパワーメントへの取組み、といった要素を挙げている⁴²。

また OECD からも、インドネシアは中国、インド、ブラジル、南アフリカに並び「開発への高い関与を示す国（Enhanced Engagement Countries）」の一員としてみなされ、2008 年からは G20 に参画するなど、MDG を中心としたグローバルな開発の議論の場に積極的に参加している⁴³。

3. 食糧安全保障・脆弱性による分析

インドネシアにおける食糧安全保障と脆弱性に関する課題としては、高い人口成長率に国内の食糧生産が追いついていないことが挙げられる。農業セクターでは、急激な経済成長から生じた資金を原資とした補助金や設備支援などもあり、1980 年代半ばまでは国内の食糧供給を満たしてきた。しかし 1990 年代に入り、1994 年及び 1997/1998 年の干ばつで米の生産高が下落、1996-2000 年の米の生産成長率はわずか 0.3%、2001-2003 年は 0.9% という状態であったこと、また同時期の人口成長率が 1.35% と、人口増加の割合に国内の米の生産・供給が追いつかない状況となり、1996-1999 年には米を従来への倍の 470 万トンを入力することで対応した。その後、米の輸入量は国内生産高と貿易自由化政策の影響を

⁴² Ministry of National Development Planning / National Development Planning Agency (BAPPENAS) (2010a) *Report on the Achievement of the Millennium Development Goals Indonesia 2010*, p.3

⁴³ Ministry of National Development Planning / National Development Planning Agency (BAPPENAS) (2010a) *Report on the Achievement of the Millennium Development Goals Indonesia 2010*, p.2

受けて変容しているが⁴⁴、2010年には再び米の収穫量が減少したため、2010年から2011年の初頭にかけて180万トンの米を輸入、2011年8月にも50万トンの追加輸入を行っている⁴⁵。

政策枠組みの観点からは、2004年の国家食料安全保障協議会会合において、県レベルでの食料安全保障への取組みが目標と定められた他、国家貧困削減戦略（PRS 2004-2009）においても、5歳未満児の栄養失調率を2009年までに20%減少させ、安定的な食糧供給を達成することが目標として掲げられた。2010-2014年のRPJMにおいても、食料分野への取組みは優先課題の1つとして取り上げられ、自給率の向上、農業生産物の競争力改善、農家所得の向上、環境と天然資源の統合等が目標として掲げられた⁴⁶。こうした国内の食料安全保障への取組みや議論は、主に大統領を議長とし、食料安全保障庁を事務局とする国家食料安全保障委員会（National Food Security Council: NFSC）⁴⁷にて行われ、国家食料安全保障政策案に反映されている。

具体的な食料安全保障のプログラムとしては、1997年の経済危機以降の食料安全保障に対応した、前述の低所得者への米購入補助金支給（Raskin）があり、現在では食糧調達庁（National Logistics Agency: BULOG）によるRasdi（政府の補助金で卸売業から米を購入、その米を各村に分配し、市場より安く1kgにつき1,600IDR、1ヶ月につき15kgまで購入できる。2009年の一般的な米の小売価格は約5,706IDR/kg）が実施されている⁴⁸。

地方別での食料安全保障と脆弱性の関係を見てみると、地図3のとおり、東ヌサ・トゥンガラ州、西ヌサ・トゥンガラ州、パプア州などの東部地域の脆弱性が最も高い。これらの地域では、貧困率が約40%と高く、その多くが農業従事者で所得水準も低い人々であるため、脆弱性も高くなっている⁴⁹。

⁴⁴ Government of the Republic of Indonesia (2005) Proposal: National Decentralised Support Programme for Food Security (NPFs: 2006-2015 covering Phase I: 2006-2009) , p.1

⁴⁵ WFP (2011) Monthly Price and Food Security Update [Indonesia: August 2011], p.2

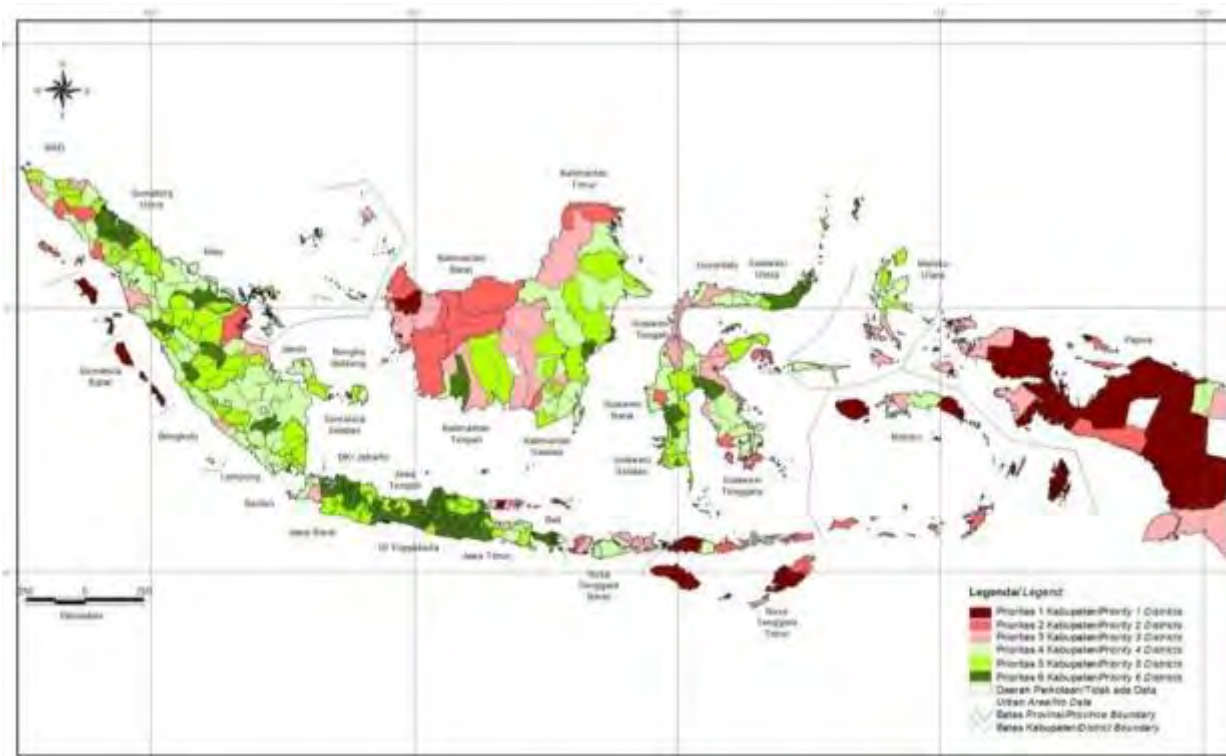
⁴⁶ BAPPENAS (2010) RPJM Book I (E) Matrix, p.I.M-40.

⁴⁷ NFSCは、農業省、内務省、国防省、国家開発企画庁（BAPPENAS）など15省庁の関係者から構成されている。外務省ウェブサイト（ODAインドネシア国別プロジェクト概要）
http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/data/gaiyou/odaproject/asia/indonesia/contents_03.html（2012年3月23日アクセス）

⁴⁸ World Bank Office Jakarta (2011) Targeting the Poor and Vulnerable in Indonesia, p.3

⁴⁹ WFP (2011) Monthly Price and Food Security Update [Indonesia: August 2011], p.3

地図 3 インドネシアの食糧安全保障と脆弱性に関する地図 (2011 年)



(注) 赤色は食糧安全保障の脆弱性が高い地域、緑色は低い地域を表している。

(出所)WFP (2011) Monthly Price and Food Security Update [Indonesia: August 2011], p.3

V. 社会的特性と貧困との関連の分析

1. 社会的属性・特性による特長

(1) 世帯規模・構成と貧困

世帯規模と貧困の関係に関し、BPS の 2009 年のデータによると、貧困層世帯の世帯構成員の数は、4.88 人であるのに対し、非貧困層世帯の世帯構成員の数は 3.87 人となっており、貧困層世帯の方が世帯あたりの構成員数が多い。2006 年の世界銀行の貧困アセスメント⁵⁰では、世帯構成員数の違いの背景について、貧困層世帯と非貧困層世帯における出生率の差を指摘している⁵¹。実際、貧困層世帯の 18 未満の子供の数は平均 2.6 名に対し、非貧困層世帯の子供の数は平均 1.6 名となっており、貧困層世帯では、世帯の規模が子供 1 人分大きくくなっている⁵²。

図表 31 貧困層世帯と非貧困層世帯の世帯構成員数 (2008, 2009 年)

Karakteristik Rumah Tangga Characteristics of Household	Rumah Tangga Miskin Poor Household		Rumah Tangga Tidak Miskin Non-Poor Household	
	2008	2009	2008	2009
(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
Rata-rata jumlah anggota rumah tangga (orang) Number of household members (person)	4,64	4,88	3,79	3,87

(出所) BPS: Badan Pusat Statistik Republik Indonesia Statistics (2010) *Statistical Yearbook of Indonesia* 2010, p188

(2) ジェンダーと貧困

貧困層に占める女性世帯主世帯の割合は、2008 年の 12.91 から、2009 年には 14.60 と増加している一方で、非貧困層に占める女性世帯主世帯の割合は、2008 年の 13.52 から 2009 年には 8.95 へと減少している。男性世帯主世帯と女性世帯主世帯の支出水準を比較した場合、2002 年の調査によると、都市部では男性世帯主世帯の支出水準は、女性世帯主世帯より 15.8% 高く、農村部では男性世帯主世帯の方が女性世帯主世帯の支出水準と比較して 31.1% 高くなっている⁵³。

⁵⁰ World Bank (2006) *Indonesia Making the New Indonesia Work for the Poor*, <http://go.worldbank.org/MGOZZHBZOO> (2012 年 3 月 23 日アクセス)

⁵¹ Ibid, p41

⁵² Ibid

⁵³ Ibid, p48

図表 32 貧困層に占める女性世帯主世帯の割合（2008, 2009 年）

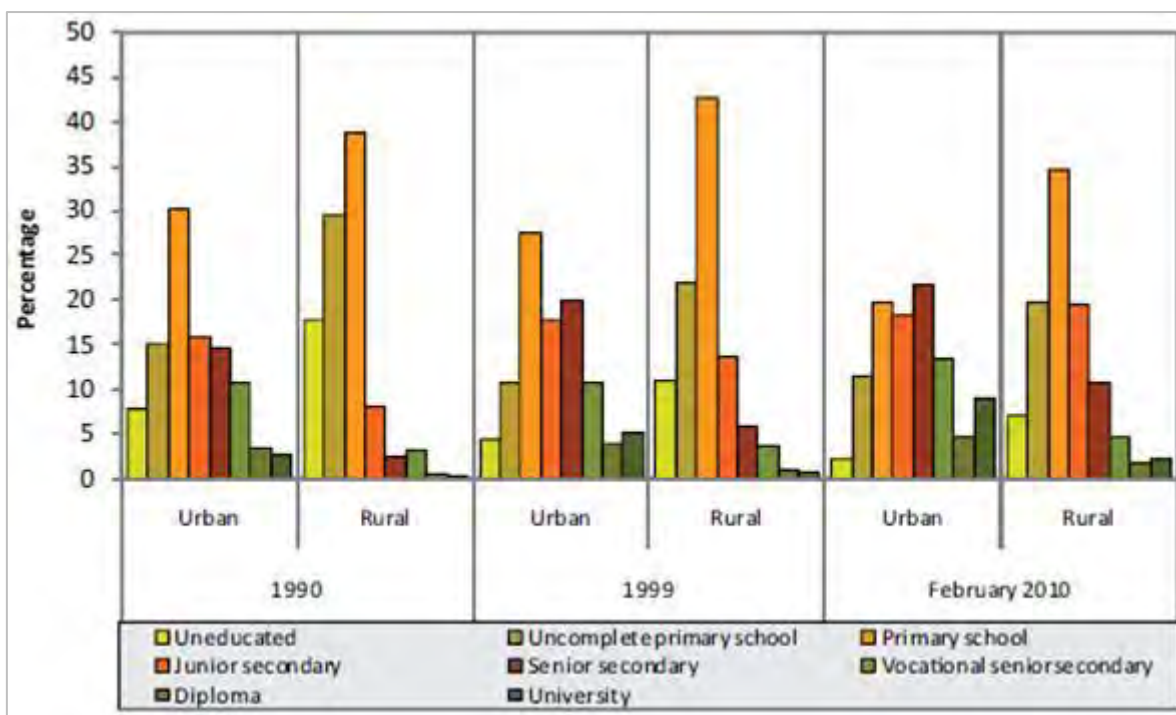
Karakteristik Rumah Tangga Characteristics of Household (1)	Rumah Tangga Miskin Poor Household		Rumah Tangga Tidak Miskin Non-Poor Household	
	2008 (2)	2009 (3)	2008 (4)	2009 (5)
Persentase kepala rumah tangga wanita Percentage of household headed by women	12,91	14,60	13,52	8,95

(出所) BPS (2010) Statistical Yearbook of Indonesia 2010, p188

(3) 教育レベルと貧困

インドネシアにおいて、農村部では初等教育修了水準の労働者の割合が高く、また、都市部と農村部を比較した場合、都市部の方が、中等教育以上の教育を受けた労働者の割合が高く、都市部と農村部で、教育の到達レベルに関して格差が存在している⁵⁴。

図表 33 労働者の最終学歴の割合（地域別：1990, 1999, 2010 年）



(出所) Ministry of National Development Planning / National Development Planning Agency (BAPPENAS) (2010) Report of the Achievement of the Millennium Development Goals Indonesia 2010, p.26

貧困と教育水準の関係に関しては、2009 年における貧困層世帯と非貧困層世帯を比較す

⁵⁴ Ministry of National Development Planning / National Development Planning Agency (BAPPENAS) (2010a) Report of the Achievement of the Millennium Development Goals Indonesia 2010, p.25

ると、貧困層世帯の教育を受けた年数が平均 4.77 年であるのに対し、非貧困層世帯では、7.59 年となっており、非貧困層世帯の方が教育を受ける期間が長かったことがわかる。また、下図表のとおり 2009 年において、貧困層での高等教育以上を修了した世帯主世帯の割合は、8.4%であるのに対し、非貧困層での同割合は 30.48%となっており、世帯主の教育水準が高い方が、非貧困層に属する割合が高く、教育と貧困の間に関連がみられる。

図表 34 世帯主の教育水準と貧困の関係 (2008, 2009 年)

Karakteristik Rumah Tangga Characteristics of Household (1)	Rumah Tangga Miskin Poor Household		Rumah Tangga Tidak Miskin Non-Poor Household	
	2008 (2)	2009 (3)	2008 (4)	2009 (5)
Tingkat pendidikan kepala rumah tangga (%) Education level of household head (%)				
a. Tidak tamat SD / Not completed primary school	42,82	40,51	23,89	23,85
b. SD / Primary school	39,42	39,89	30,19	31,13
c. SLTP / Junior high school	10,23	11,20	14,75	14,54
d. SLTA / Senior high school	7,12	7,94	23,32	22,64
e. PT / University	0,41	0,46	7,85	7,84

(出所) BPS (2010) Statistical Yearbook of Indonesia 2010, p188

(4) 職業と貧困

国家 GDP 全体に占める農業セクターの割合は、1980 年の 24%から現在は 14%と減少する一方、農村部での雇用の約 60%を農業で吸収しているというミスマッチが起きている⁵⁵。下図表に示されたとおり、貧困層に占める世帯主が農業従事者の割合は高く、2008 年の 56.35%から 2009 年の 63.56%へ増加している。

農業に従事することと貧困とは相関関係があり、農業従事者と他セクター就業者の消費水準を比較すると、農業従事者の消費水準は低く、そのため、より貧困に陥りやすい状況にあると言える⁵⁶。インフォーマルに農業セクターに従事する世帯主を基準とした場合、フォーマルに農業セクターに従事する世帯主の消費水準は基準より 3.1%高く、インフォーマルに工業セクターに従事する世帯主の消費水準は 5.4%高くなっている。また、所得面では、インフォーマルにサービスセクターに従事する世帯主の所得は、14%高く、フォーマルにサービスセクターに従事する世帯主の所得は 22%高くなっており、フォーマルに農業セクターに従事するか、労働者を農業以外のセクターにシフトすることが、貧困削減に繋がるとの見方が示されている⁵⁷。

⁵⁵ World Bank (2009) Policy Research Working Paper: Distributional Impact Analysis of Past Climate Variability in Rural Indonesia, p.5

⁵⁶ World Bank (2006) Indonesia: Making the New Indonesia: Work for the Poor, p.48

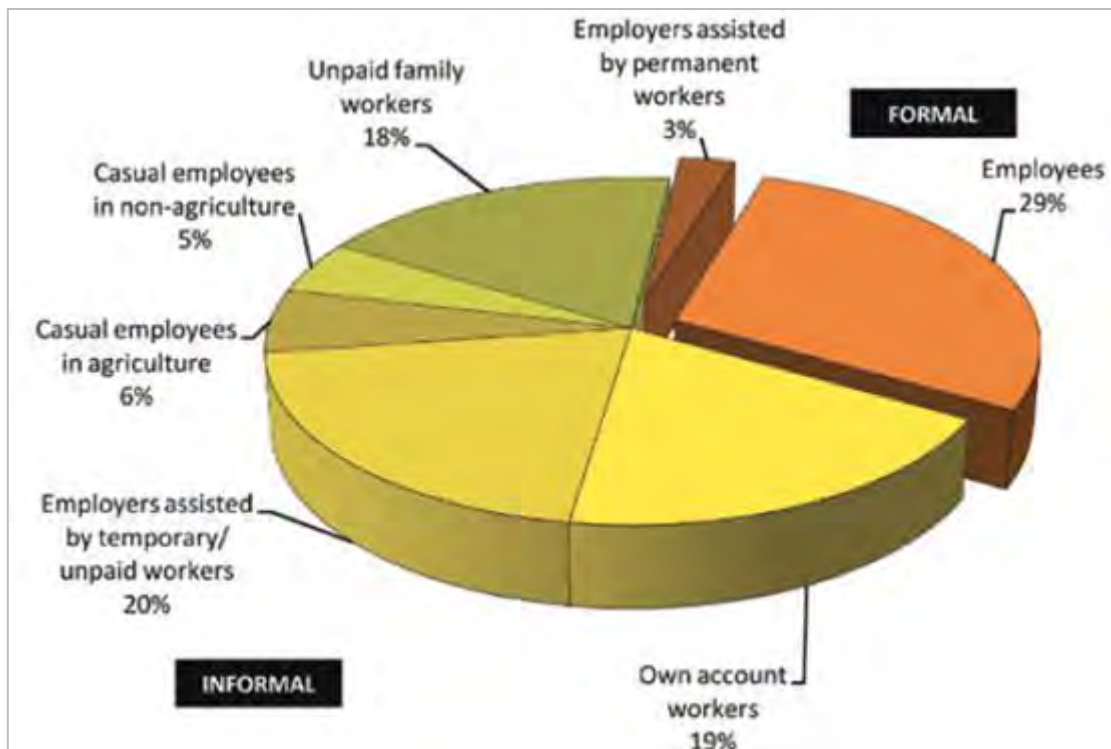
⁵⁷ 2002 年の統計をもとにした World Bank (2006) Indonesia: Making the New Indonesia: Work for the Poor, p.48 より。

図表 35 世帯主の職業と貧困の関係 (2008, 2009 年)

Karakteristik Rumah Tangga Characteristics of Household	Rumah Tangga Miskin Poor Household		Rumah Tangga Tidak Miskin Non-Poor Household	
	2008	2009	2008	2009
(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
Sumber penghasilan utama rumah tangga (%) Main source of income (%)				
a. Tidak Bekerja / Unemployment	10,62	9,81	11,19	10,77
b. Pertanian / Agriculture	56,35	63,56	35,06	43,60
c. Industri / Manufacturing	6,86	5,76	8,70	5,97
d. Lainnya / Others	26,16	20,87	45,05	39,66

(出所) BPS (2010) Statistical Yearbook of Indonesia 2010, p188

図表 36 全労働者における雇用形態別割合 (2010 年)



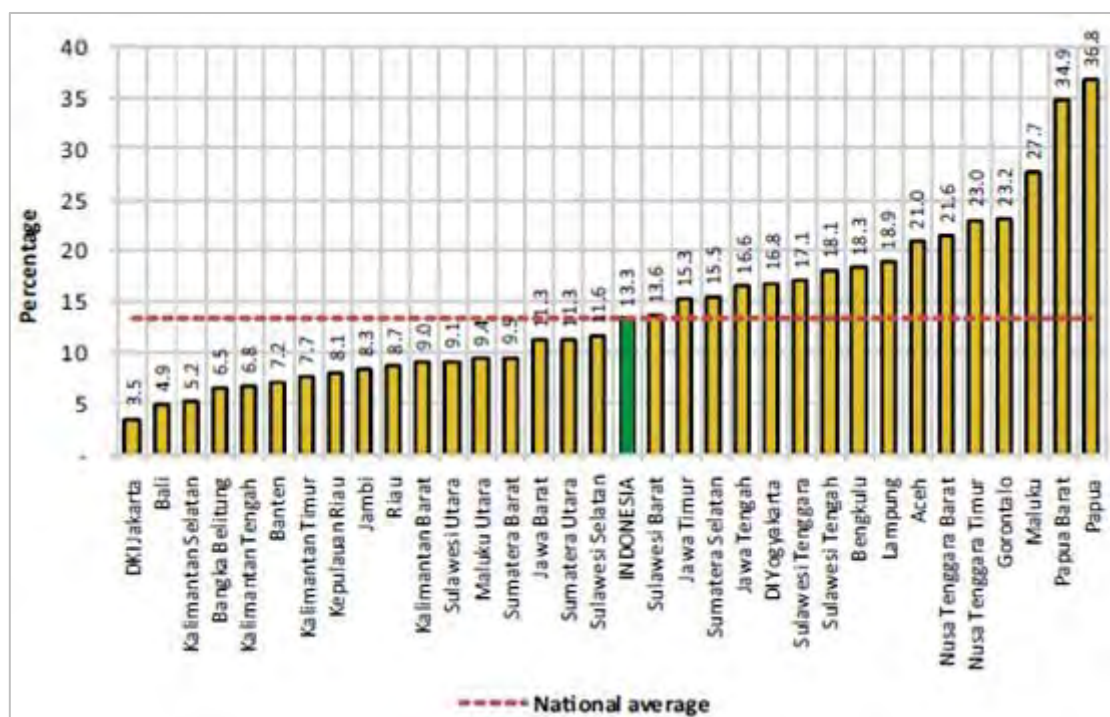
(出所) Ministry of National Development Planning / National Development Planning Agency (BAPPENAS) (2010a) Report of the Achievement of the Millennium Development Goals Indonesia 2010, p.28

2. 社会的に排除されているグループの存在と貧困指標との関係

(1) 地方・農村部での貧困問題⁵⁸

他国同様、インドネシアにおいても、貧困の分布に地域間差異がみられる。2010年の地域別の貧困線以下の人口の割合は、インドネシア 33 州のうち、16 州で国平均の貧困線以下人口を上回る水準を記録しており、特に、パプア州 (36.80%)、西パプア州 (34.9%)、マルク州 (27.74%) では、国平均の貧困線以下人口の割合である 13.3%の倍以上の数値となっている。このように人口に占める貧困層の割合が高い州がある一方、ジャカルタ州 (3.48%) や、バリ州 (4.88%) の貧困層の人口に占める割合は低くなっている。インドネシアでは、都市部の貧困率 9.87%に比べ、農村部の貧困率は 16.56%と高くなっており、農村部の更なる開発が求められている。

図表 37 インドネシアにおける貧困線以下人口の州別割合 (2010年) (再掲)



(出所) Ministry of National Development Planning / National Development Planning Agency (BAPPENAS) (2010a) Report of the Achievement of the Millennium Development Goals Indonesia 2010, p.19

⁵⁸ Republic of Indonesia (2010) Report of the Achievement of the Millennium Development Goals Indonesia 2010, pp.18-19

VI. 貧困に影響を与えている国内外の要因

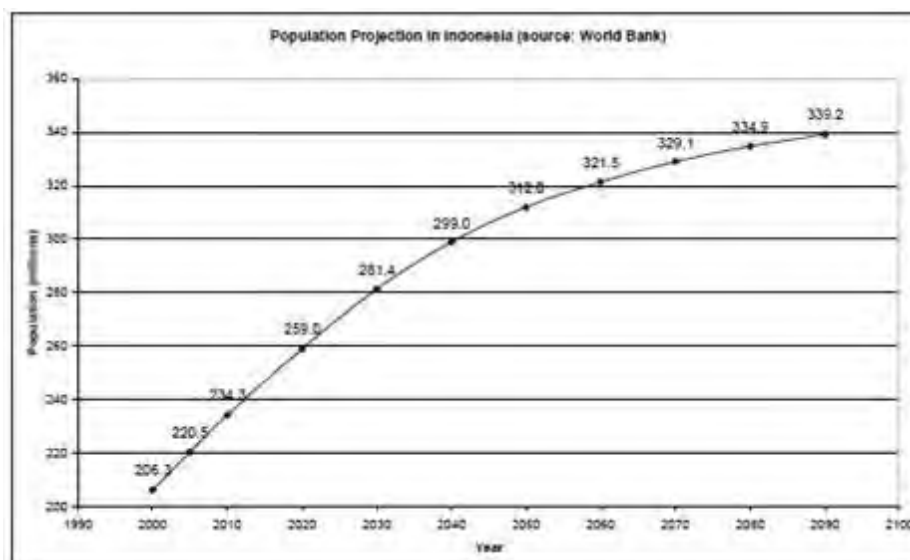
1. 天災、気候変動

貧困層に占める農業従事者の割合が高いインドネシアにおいて、気候変動に伴う旱魃等の問題は、貧困層の生活に直接的な影響を与え得る要因の一つと考えられる。例えば、米の生産では、相当量の水を利用するため、雨季の開始を待って苗が植えられるが、エルニーニョ現象の影響等で雨季が遅れた場合、作付け時期も遅れ、生育期間が短くなり、その結果、米の収穫量が減少する。実際、インドネシアでは1983年から2004年にかけて、雨季開始が1ヶ月遅れたことによる、米の収穫量減少が指摘されており⁵⁹、農業の生産性に影響する気候変動や洪水等の天災は、貧困に影響を与えるリスク要因の一つと考えられる。

2. 人口・労働の側面からのリスク

人口数、人口成長、人口分配は貧困削減を考える際の重要な観点となる。2010年のインドネシアの人口は2億3,750万人であり⁶⁰、1971年の人口数と比べると2倍以上に増加している。

図表 38 インドネシアの人口爆発予測図



(出所) Government of the Republic of Indonesia (2005) Proposal: National Decentralised Support Programme for Food Security (NPFs: 2006-2015 covering Phase I: 2006-2009), p.30

2015年のインドネシアの総人口は2億4,760万人になると予測されており、そのうち約

⁵⁹ World Bank (2009) Policy Research Working Paper: Distributional Impact Analysis of Past Climate Variability in Rural Indonesia, p.5. このほか、World Bank (2011) Policy Research Working Paper: Too Little Too Late: Welfare Impacts of Rainfall Shocks in Rural Indonesia でも、米農家が気候変動の影響を受けてネガティブな経済影響を受けたことを明らかにしている。

⁶⁰ 中国、インド、米国に次ぎ、世界第4位の人口を有している。

60.2%が、国土⁶¹の 7%にも満たないジャワに住み、80%以上の国の産業がジャワに集中すると見られている⁶²。また、人口集中により、貧困の絶対数では、ジャワ・バリ・スマトラ島の貧困人口が全貧困人口の約 6 割を占めている。特にジャカルタは人口の 25%近くがスラム世帯であることが指摘されている（図表 40 参照）。

このように、人口ボーナス期⁶³に入っているインドネシアにとって、雇用機会を適切に増やすことができれば、経済成長を順調に進めていくことが期待できる。

図表 39 人口分布と人口密度（県別：2000, 2010 年）

Provinsi Province	Persentase Penduduk Percentage of Total Population		Kepadatan Penduduk ³ per km ² Population Density per sq.km	
	2000	2010 ⁴	2000	2010 ⁴
(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
Aceh	1,92	1,89	68	77
Sumatera Utara	5,68	5,47	160	178
Sumatera Barat	2,07	2,04	101	115
Riau	1,90	2,33	45	64
Kepulauan Riau	0,51	0,71	127	206
Jambi	1,17	1,30	48	62
Sumatera Selatan	3,03	3,13	88	81
Kepulauan Bangka Belitung	0,44	0,51	55	74
Bengkulu	0,71	0,72	73	86
Lampung	3,28	3,20	194	219
DKI Jakarta	4,08	4,04	12 592	14 440
Jawa Barat	17,42	18,11	1 010	1 216
Banten	3,95	4,48	838	1 102
Jawa Tengah	15,22	13,63	952	987
DI Yogyakarta	1,52	1,45	996	1 102
Jawa Timur	16,95	15,78	727	784
Bali	1,54	1,64	545	673
Nusa Tenggara Barat	1,95	1,89	216	242
Nusa Tenggara Timur	1,86	1,97	78	96
Kalimantan Barat	1,96	1,85	27	30
Kalimantan Tengah	0,90	0,93	12	14
Kalimantan Selatan	1,45	1,53	77	94
Kalimantan Timur	1,20	1,49	12	17
Sulawesi Utara	0,98	0,95	144	164
Gorontalo	0,41	0,44	74	92
Sulawesi Tengah	1,06	1,11	35	43
Sulawesi Selatan	3,49	3,38	153	172
Sulawesi Barat	0,43	0,49	53	69
Sulawesi Tenggara	0,89	0,94	48	59
Maluku	0,57	0,64	25	33
Maluku Utara	0,40	0,44	25	32
Papua	0,82	1,20	5	9
Papua Barat	0,26	0,32	5	8
Indonesia	100,00	100,00	107	124

(出所)BPS (2010) Statistical Yearbook of Indonesia, p.87

⁶¹ インドネシアの国土面積は 1,860,360 平方キロメートルで、日本の約 5 倍となっている。

⁶² Ministry of National Development Planning / National Development Planning Agency (BAPPENAS) (2010a) Report of the Achievement of the Millennium Development Goals Indonesia 2010, p.3

⁶³ 従属人口に対して生産年齢人口の比率が倍以上となっているとき、人口ボーナス期とも言われている。

図表 40 スラム世帯の割合（州別：2009年）

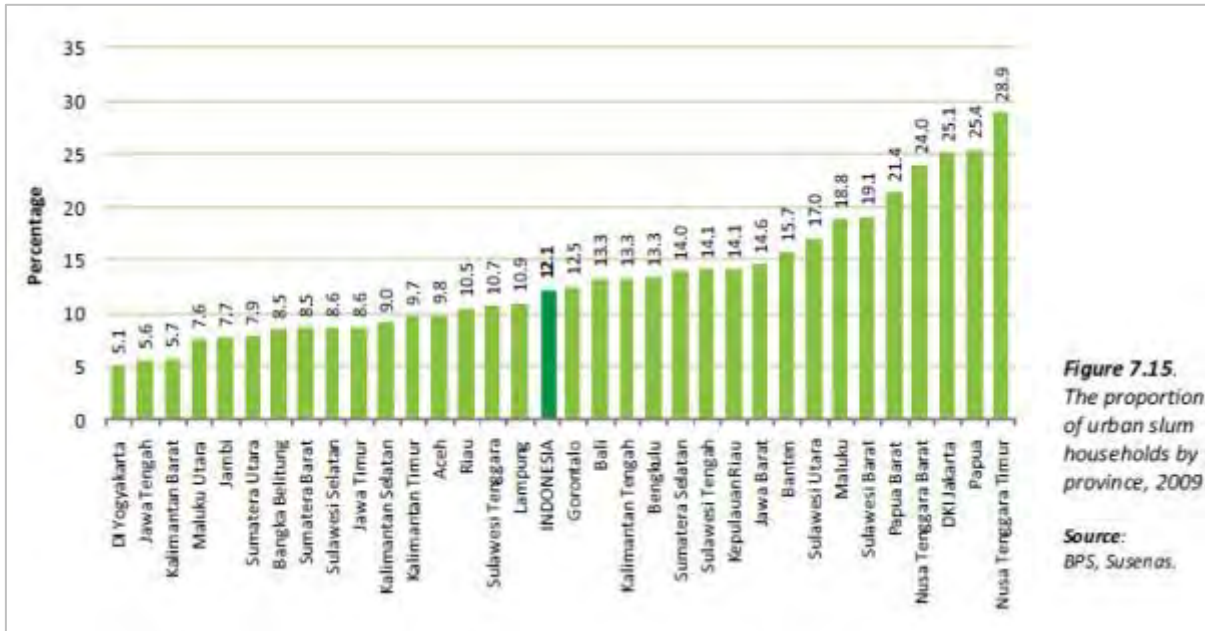


Figure 7.15. The proportion of urban slum households by province, 2009

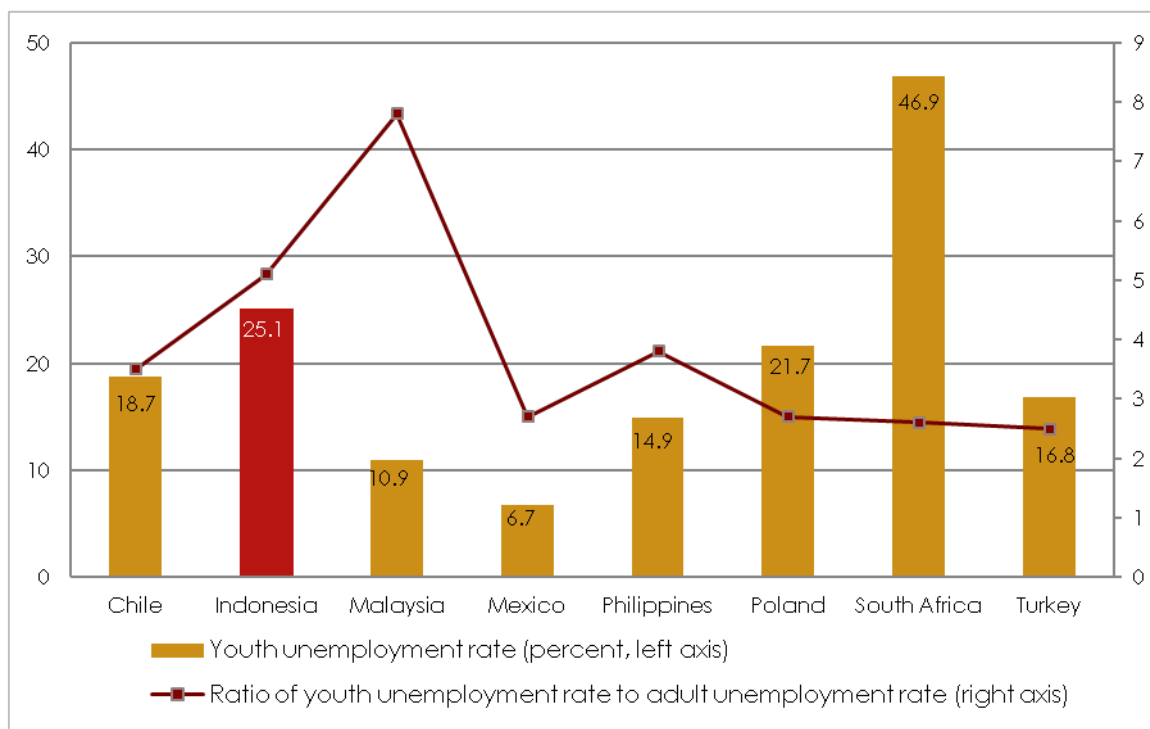
Source: BPS, Susenas.

(出所) Ministry of National Development Planning / National Development Planning Agency (BAPPENAS) (2010a) *Report of the Achievement of the Millennium Development Goals Indonesia 2010*, p.115

また労働面からの要因として、若年層の失業率の高さが挙げられる⁶⁴。また、2010年8月時点において、15–24歳の若年率は25.1%に上り、周辺国と比較してもその失業率の高さが際立っている。人口増加を経済成長につなげるため、若年層に対する更なる雇用創出が期待される。

⁶⁴ World Bank (2011) *Is There a Youth Unemployment Crisis in Indonesia? A look at the facts to help identify policy solutions for a better future*, <http://go.worldbank.org/7ZG18IG9R0>, slide 2 (2012年3月23日アクセス)

図表 41 若年失業率の国際比較 (2010 年)



(出所) World Bank (2011) Is There a Youth Unemployment Crisis in Indonesia? A look at the facts to help identify policy solutions for a better future

(原典) ILO and WDI, 2007 (Indonesia calculated from core unemployment Census 2007)

上記のような失業や貧困が一因となり、インドネシアでは出稼ぎ労働者が多数海外で就労している。世界銀行の資料によると、1998 年以降、毎年約 40 万人のインドネシア人が合法的に移住したと登録されており、実際のインドネシアから国外への移住者は更に多いと推測される⁶⁵。2004 年の統計では、移住者の 83%が女性であり、こうした女性出稼ぎ労働者の 90%以上は、家政婦等、インフォーマルセクターの職に従事している⁶⁶。また、IOM による近年のインドネシアからの出稼ぎ労働者数と男女別の割合、2009 年の移住先は、下図表のとおりとなっている。出稼ぎ労働者の数は、2007 年には約 70 万人まで増加しており、出稼ぎ先としては、マレーシアやサウジアラビア等、イスラム圏が多くなっている。

⁶⁵ World Bank (2006) Migration, Remittance, and Female Migrant Workers, http://siteresources.worldbank.org/INTINDONESIA/Resources/fact_sheet-migrant_workers_en_jan06.pdf, p1 (2012 年 3 月 23 日アクセス)

⁶⁶ Ibid

図表 42 男女別出稼ぎ労働者数（1996-2007 年）

Gender	1996		2000		2004		2007	
	Total	%	Total	%	Total	%	Total	%
Men	228,337	44	137,949	32	84,075	22	152,887	22
Women	288,832	56	297,273	68	296,615	78	543,859	78
Total	517,169	100	435,222	100	380,690	100	696,746	100

(出所) IOM (2010) Labour Migration from Indonesia: An overview of Indonesian Migration to Selected Destinations in Asia and the Middle East, p.9

図表 43 海外移住労働者数と国名（2009 年）

No.	Destination Country	Total
1	Malaysia	222,198
2	Singapore	37,496
3	Brunei Darussalam	5,852
4	Hong Kong SAR	29,973
5	Republic of Korea	3,830
6	Japan	96
7	Taiwan Province of China	50,810
8	Saudi Arabia	257,217
9	Kuwait	25,756
10	UAE	28,184
11	Bahrain	2,267
12	Qatar	10,449
13	Jordan	12,062
14	Oman	7,150

(出所) IOM (2010) Labour Migration from Indonesia: An overview of Indonesian Migration to Selected Destinations in Asia and the Middle East, p.9

出稼ぎの理由に関しては、村での収入は不確実であり、毎日の必要な支出に見合う十分な収入でないこと、海外の方が雇用機会も多く、職種も多いこと等が挙げられ、海外出稼ぎと貧困が密接な関係があることを示している⁶⁷。こうした出稼ぎ移住者の出身は、西ジャワ州 (Sukabumi, Cianjur, Indramayu)、中部ジャワ州 (Cilacap, Wonosobo)、ジョグ・ジャカルタ州 (Kulon Progo)、東ジャワ州 (Malang, Kediri, Ponorogo)、東ヌサ・トゥンガラ州、西ヌサ・トゥンガラ州等が多く、一般に初等教育修了以下の教育水準である非技能労働者であると言われている⁶⁸。また、出稼ぎ動労者からの送金額は、2003 年、2004 年は約 14.9 億米ドルと 10 億米ドル、2005 年は 25 億ドルと増加している⁶⁹。

⁶⁷ World Bank (2006) Migration, Remittance, and Female Migrant Workers, pp.1-2

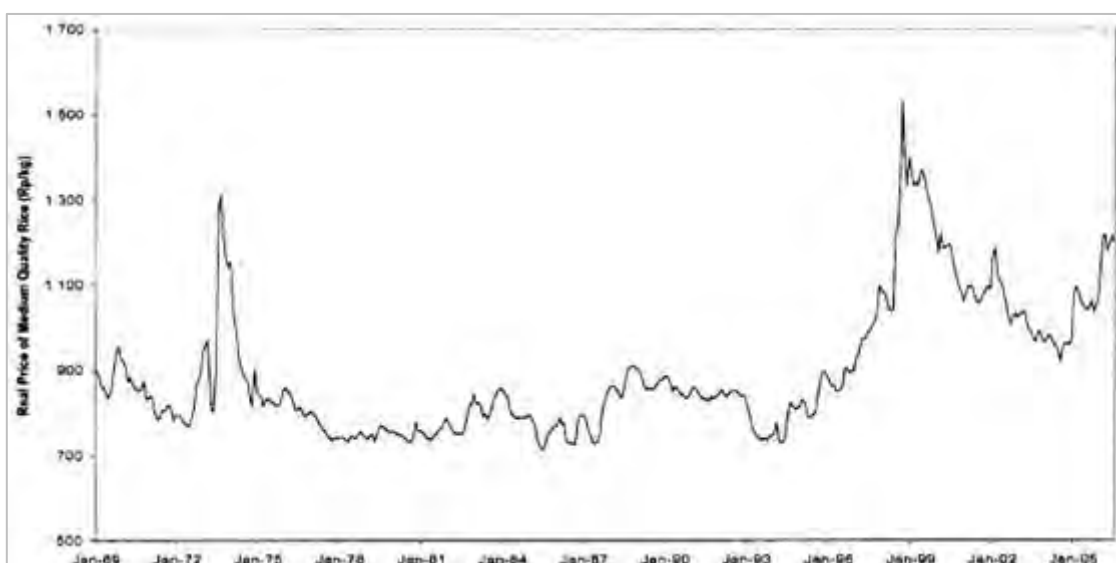
⁶⁸ Ibid, p2

⁶⁹ Ibid, p5

3. 米等、食料価格の上昇

インドネシアでは、米は主食であり、また、その生産高からも特に重要な農作物となっている。そのため、米はスハルト政権時代より、農業政策の要であり、その安定した供給が模索されてきた⁷⁰。食料支出は貧困者の消費にとって大きな割合を占めている。現在のインドネシアでは、貧困層の家計消費に占める食料支出の割合は、約 50%を占めると言われており⁷¹、主要な食料である米等の価格上昇は、貧困に影響を与えるリスクの一つと考えられる。

図表 44 米価格の変動の推移 (1969-2005 年)



(出所)World Bank Office Jakarta (2011) Targeting the Poor and Vulnerable in Indonesia, p.193

4. 社会サービスへのアクセスと貧困

貧困と社会サービスへのアクセスには強い相関関係がある⁷²。下図表では都市と農村の家計の支出関数の推定結果を表したもので、下記のような結果が示されている。

第 1 に、教育を受けた年数と家計の支出額には強い正の相関関係があること、また教育年数が長い家計ほど、消費量が多いことが示されている⁷³。

第 2 に、貧困は職業選択と相関関係があり、世帯主が農村で働いている家計ほど消費量が少なく、世帯主が産業に従事している家計ほど消費量が多いため、非農業部門に従事す

⁷⁰ 1997/1998 年のアジア経済危機の影響でインドネシア通貨 IDR は暴落し、高いインフレが起こった。これによりジャカルタの米の価格も 2 倍となった。

⁷¹ OECD (2010) Economic Importance of Agriculture for Sustainable Development and Poverty Reduction: Findings from a Case Study of Indonesia, p.13

⁷² World Bank (2006) Indonesia: Making the New Indonesia: Work for the Poor, p.49

⁷³ ただし、教育を受けた年数の 2 乗の係数は有意に負の値をとっているため、教育の限界効果は逡減している。

ることが貧困を解消する一因となることが示唆されている。

第 3 に、世帯主か女性の家計ほど貧困率が高く、1999 年では都市部において男性世帯主の家計は女性世帯主家長の家計に比べて支出額が多く、この傾向は農村部でより顕著に表れている。またこの男女格差は 2002 年でさらに拡大している。

第 4 に、基本的な施設やインフラにアクセスしにくい家計ほど貧困に直面しやすい。金融機関へのアクセスや、道路へのアクセスがしやすい家計ほど消費量は多い⁷⁴。

⁷⁴ ただし、電話回線へのアクセスと貧困の関係は、地域によって差があり、特定の地域でしか有意な結果が出ていない。

図表 45 都市と農村の家計の支出関数の推定結果 (1999-2002 年)

	1999		2002	
	Urban	Rural	Urban	Rural
<i>Demographic Characteristics of Household Head</i>				
Sex	0.14290 (15.610)***	0.28362 (37.360)***	0.15825 (17.170)***	0.31072 (38.070)***
Years of schooling	-0.02214 (7.610)***	-0.03169 (12.140)***	-0.00711 (2.790)***	-0.02078 (7.710)***
Square of years of schooling	0.00364 (21.629)***	0.003674 (20.320)***	0.00292 (21.200)***	0.00280 (15.150)***
Experience	0.02444 (33.790)***	0.018353 (31.489)***	0.02029 (28.790)***	0.01587 (26.799)***
Square of experience	-0.00036 (30.309)***	-0.000283 (31.379)***	-0.00029 (28.010)***	-0.00026 (26.940)***
<i>Occupation of Household Head</i>				
Inactive	0.01924 (1.230)	-0.020381 (2.160)**	0.10219 (7.460)***	0.00888 (0.8900)
Formal agriculture	-0.05920 (2.830)***	-0.060927 (7.610)***	0.03589 (1.870)*	0.03127 (3.630)***
Industry				
Informal	0.01409 (0.570)	-0.018471 (1.140)	0.08382 (4.320)***	0.05413 (3.990)***
Formal	0.06052 (3.990)***	0.069911 (8.290)***	0.17836 (13.650)***	0.11729 (12.600)***
Services				
Informal	0.05909 (3.970)***	0.096282 (11.030)***	0.13452 (10.420)***	0.14269 (14.990)***
Formal	0.11854 (8.090)***	0.142663 (17.469)***	0.21392 (17.200)***	0.22667 (26.000)***
<i>Occupation of Non Household Head with Highest Education</i>				
Agriculture				
Informal	0.03277 (2.610)***	0.031849 (8.550)***	0.01016 (0.940)	0.02389 (6.240)***
Formal	-0.01697 (0.980)	0.036793 (5.150)***	-0.02172 (1.140)	0.03346 (3.820)***
Industry				
Informal	0.04135 (2.600)***	0.031826 (3.970)***	0.03074 (2.240)**	-0.01333 (1.300)
Formal	0.03417 (4.530)***	0.067964 (7.940)***	0.08449 (7.910)***	0.09136 (10.700)**
Services				
Informal	0.09247 (14.550)***	0.096342 (14.000)***	0.08896 (9.540)***	0.10010 (12.780)***
Formal	0.11351 (20.660)***	0.114682 (16.180)***	0.12697 (23.200)***	0.16694 (19.160)***
<i>Other Household Characteristics</i>				
Average years of schooling of household	0.016 (13.920)***	0.030124 (29.540)***	0.01241 (11.770)***	0.02913 (27.440)***
Square of average years of schooling of household	-0.00014 (1.570)	-0.000939 (10.430)***	0.00011 (1.390)	-0.00096 (10.240)***
Status of house	0.13967 (18.020)***	0.011654 (0.800)	0.13657 (19,510)***	0.02833 (2.820)***
<i>Community and Facility Characteristics by District</i>				
Population density	0.00039 (14.630)***	-0.000046 (0.300)	0.00003 (8.230)***	-0.00220 (6.010)***
Average number of senior high schools	0.01290 (9.130)***	-0.001383 (0.360)	0.00679 (4.330)***	0.03793 (7.220)***
Proportion of vocational skills education	0.06349 (9.770)***	0.111026 (8.440)***	0.07061 (11.370)***	0.00999 (0.7700)
Proportion of existing credit facilities	0.00984 (1.550)	0.028603 (5.060)**	0.05504 (8.750)***	0.01788 (2.920)**
Proportion of type of widest road that is asphalt	0.08027 (6.180)***	0.031031 (6.540)***	0.07721 (6.960)***	0.03115 (6.370)***
Proportion of existing telephone and wartel	0.04678 (4.330)***	0.000919 (0.150)	0.01721 (1.300)	0.00722 (1.3400)
Constant	12.15499 (546.179)***	12.41 (738.450)***	12.18094 (584.729)***	12.42142 (925.669)***
Observations	24,806	34,034	27,288	30,712
Required	0.4660	0.3923	0.4675	0.3831

Source: Susenas 1999 and 2002.

Note: Absolute value of t statistics in parentheses significant at 10 percent; ** significant at 5 percent; and *** significant at 1 percent.

(出所) World Bank (2006) Indonesia: Making the New Indonesia: Work for the Poor, p.47

VII. JICA の優先課題における貧困

1. 経済成長（電力・交通といったインフラ整備）

第2期 RPJM においても、インフラへの投資は優先項目の1つとして掲げられ、特に① PPP を活用したインフラ開発、②輸送、郵便、通信インフラネットワークの開発、③バイオエネルギー、地熱、水力、風力、太陽光を活用した再生可能エネルギー活用の促進、の3分野への取組みが挙げられている⁷⁵。

図表 46 では、州別の電気、道路、通信等へのアクセス状況が示されている。インフラ整備と貧困には相関があるとされ、1年を通じて通行可能な幹線道路へのアクセスを持った世帯は、そうではない世帯よりも消費額が多いことが分析結果で明らかとなっている。また、非貧困者の75.9%が幹線道路へのアクセスがある一方で、農村の貧困世帯では53.0%がアクセスを持つのみとなっている⁷⁶。

⁷⁵ BAPPENAS (2010) RPJM Book I (E) Matrix, p.I.M-34

⁷⁶ World Bank (2006) Indonesia: Making the New Indonesia: Work for the Poor, p.49

図表 46 地域別インフラへのアクセス (1994-2002 年)

Province	Villages with PLN electricity (%)	Villages with concrete/asphalt road (%)	Villages with telephone (%)	Infrastructure investments per capita 1994-2002 (US\$)	Population density (per km ²)
Sumatra	90	75	57	128	
North Sumatra	97	66	63	83	158
West Sumatra	86	74	55	89	99
Riau	87	91	77	287	52
Jambi	82	86	66	157	45
South Sumatra	85	81	51	130	74
Bengkulu	98	93	32	219	79
Lampung	87	65	50	80	191
Java/Bali	97	67	65	81	
DKI Jakarta	100	100	100	593	12,635
West Java	93	68	64	36	1,033
Central Java	99	65	47	33	959
DI Yogyakarta	100	79	72	80	980
East Java	97	63	82	42	726
Bali	98	99	78	163	559
Nusa Tenggara	75	59	29	119	
West Nusa Tenggara	88	79	42	108	199
East Nusa Tenggara	71	53	26	130	83
Kalimantan	90	71	58	301	
West Kalimantan	94	72	52	137	27
Central Kalimantan	77	46	45	378	12
South Kalimantan	94	77	55	147	69
East Kalimantan	93	88	84	681	11
Sulawesi	88	70	41	130	
North Sulawesi	89	72	34	189	132
Central Sulawesi	64	82	43	253	35
South Sulawesi	97	72	55	61	129
Southeast Sulawesi	91	55	19	230	48
Indonesia	96	74	69		

(出所)World Bank (2006) Indonesia: Making the New Indonesia: Work for the Poor, p.104

2. 地域間格差是正（connectivity の強化）

インドネシアでは農村部のインフラ整備も進めてきたが、未だに都市部と農村部との格差は存在する。図表 47 では、各州の都市部と農村部のジニ係数の比較が示されており、2002 年から 2006 年にかけて格差が拡大している。

図表 47 州別・都市部・農村部別のジニ係数（2002-2006年）（再掲）

	2002			2003			2004			2005			2006		
	Urban	Rural	Total	Urban	Rural	Total	Urban	Rural	Total	Urban	Rural	Total	Urban	Rural	Total
National	0.339	0.254	0.331	0.316	0.253	0.311	0.323	0.262	0.322	0.371	0.295	0.363	0.349	0.281	0.342
Nanggroe Aceh	0.246	NA	0.246	0.281	0.212	0.283	0.301	0.231	0.276	NA	NA	NA	0.318	0.262	0.307
Sumatera Utara	0.274	0.229	0.274	0.272	0.274	0.266	0.265	0.243	0.269	0.315	0.272	0.314	0.297	0.245	0.287
Sumatera Barat	0.271	0.242	0.272	0.261	0.149	0.265	0.285	0.242	0.286	0.310	0.288	0.316	0.299	0.275	0.303
Riau	0.297	0.227	0.295	0.271	0.487	0.296	0.288	0.250	0.301	0.332	0.284	0.323	0.312	0.257	0.305
Jambi	0.276	0.232	0.255	0.256	0.131	0.242	0.263	0.215	0.239	0.323	0.278	0.307	0.335	0.257	0.293
Sumatera Selatan	0.297	0.211	0.283	0.259	0.151	0.250	0.258	0.229	0.260	0.310	0.250	0.289	0.342	0.244	0.307
Bengkulu	0.285	0.258	0.301	0.274	0.186	0.271	0.297	0.222	0.290	0.351	0.253	0.307	0.323	0.242	0.292
Lampung	0.311	0.246	0.259	0.319	3.122	0.288	0.302	0.236	0.283	0.409	0.281	0.356	0.314	0.283	0.310
Kep. Bangka Belitung	0.275	0.199	0.406	0.236	0.113	0.237	0.253	0.241	0.260	0.307	0.304	0.309	0.277	0.239	0.270
Kepulauan Riau	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	0.327	0.292	0.343	0.344	0.244	0.349
DKI Jakarta	0.406	NA	0.305	0.323	NA	0.323	0.371	NA	0.371	0.406	NA	0.406	0.399	NA	0.399
Jawa Barat	0.308	0.233	0.289	0.300	0.745	0.296	0.309	0.237	0.303	0.347	0.269	0.346	0.331	0.266	0.345
Jawa Tengah	0.300	0.236	0.377	0.276	0.249	0.269	0.278	0.234	0.278	0.313	0.259	0.306	0.298	0.249	0.297
DI Yogyakarta	0.389	0.268	0.308	0.346	0.185	0.351	0.380	0.264	0.385	0.395	0.304	0.410	0.358	0.285	0.370
Jawa Timur	0.317	0.254	0.324	0.292	0.261	0.285	0.294	0.243	0.297	0.347	0.273	0.335	0.316	0.273	0.324
Banten	0.302	0.218	0.292	0.302	0.225	0.307	0.284	0.217	0.301	0.446	0.236	0.434	0.310	0.262	0.329
Bali	0.305	0.237	0.285	0.277	0.268	0.268	0.270	0.233	0.267	0.331	0.273	0.322	0.322	0.274	0.320
Nusa Tenggara Barat	0.301	0.246	0.275	0.296	0.192	0.278	0.296	0.259	0.280	0.352	0.279	0.331	0.330	0.279	0.319
Nusa Tenggara Timur	0.276	0.230	0.313	0.261	0.194	0.256	0.294	0.243	0.289	0.356	0.279	0.339	0.362	0.273	0.343
Kalimantan Barat	0.331	0.244	0.264	0.314	0.158	0.293	0.300	0.242	0.296	0.329	0.262	0.316	0.311	0.261	0.301
Kalimantan Tengah	0.266	0.238	0.298	0.243	0.223	0.241	0.258	0.231	0.257	0.298	0.238	0.271	0.285	0.231	0.260
Kalimantan Selatan	0.290	0.261	0.315	0.305	0.122	0.290	0.282	0.247	0.290	0.318	0.287	0.325	0.321	0.259	0.317
Kalimantan Timur	0.314	0.243	0.285	0.324	0.213	0.310	0.345	0.304	0.340	0.353	0.309	0.354	0.346	0.281	0.347
Sulawesi Utara	0.263	0.255	0.291	0.293	0.521	0.296	0.240	0.218	0.261	0.296	0.310	0.324	0.276	0.263	0.291
Sulawesi Tengah	0.335	0.247	0.272	0.285	0.219	0.256	0.286	0.270	0.295	0.314	0.278	0.308	0.372	0.275	0.337
Sulawesi Selatan	0.282	0.232	0.277	0.281	1.219	0.261	0.296	0.242	0.277	0.347	0.270	0.315	0.324	0.273	0.317
Sulawesi Tenggara	0.272	0.254	0.243	0.277	0.209	0.269	0.275	0.251	0.278	0.322	0.296	0.323	0.327	0.265	0.314
Gorontalo	0.254	0.233	0.223	0.256	0.171	0.295	0.268	0.272	0.315	0.377	0.308	0.364	0.308	0.286	0.321
Sulawesi Barat	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	0.288	0.311	0.310
Maluku	0.232	0.196	0.228	0.222	0.139	0.240	0.216	0.222	0.248	0.298	0.261	0.286	0.269	0.251	0.293
Maluku Utara	0.220	0.197	0.223	0.268	0.115	0.284	0.201	0.210	0.266	0.313	0.260	0.317	0.269	0.227	0.290
Irian Jaya Barat	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	0.258	0.246	0.290
Papua	0.227	0.228	0.228	0.261	0.166	0.339	0.265	0.310	0.324	0.331	0.361	0.408	0.292	0.312	0.362

（出所）Hartono and Irawan (2011) Decentralization Policy and Equality: A Theil Analysis of Indonesian Income Inequality, *European Journal of Economics, Finance and Administrative Sciences*, Issue 29, p.44

また、インドネシア国内でのジニ係数が高い州（格差が大きい州）は、図表 48 の通りで、ジャカルタ首都特別州（DKI ジャカルタ）やジョグ・ジャカルタ州、パプア州等の格差が大きいことが示されている。

図表 48 ジニ係数が最も高い7州のジニ係数の推移 (2002-2006年)

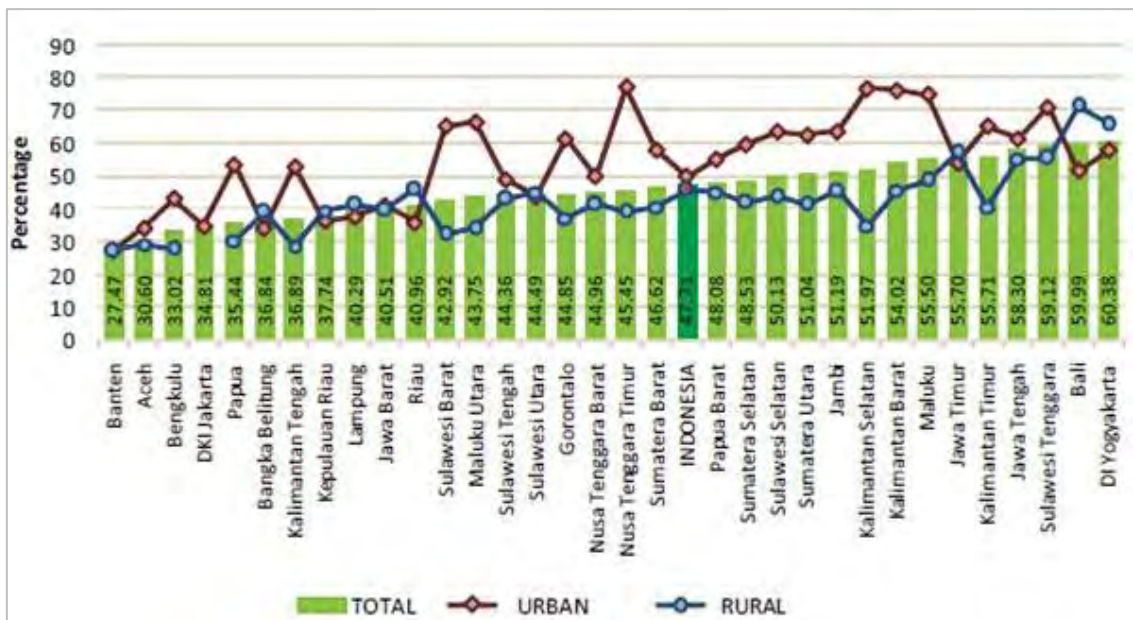
Rank	2002	2003	2004	2005	2006
1	Bangka Belitung	DI Yogyakarta	DI Yogyakarta	Banten	DKI Jakarta
2	Jawa Tengah	Papua	DKI Jakarta	DI Yogyakarta	DI Yogyakarta
3	Jawa Timur	DKI Jakarta	Kalimantan Timur	Papua	Papua
4	Kalimantan Selatan	Kalimantan Timur	Papua	DKI Jakarta	Kepulauan Riau
5	Nusa Tenggara Timur	Banten	Gorontalo	Gorontalo	Kalimantan Timur
6	DI Yogyakarta	Sulawesi Utara	Jawa Barat	Lampung	Jawa Barat
7	DKI Jakarta	Jawa Barat	Banten	Kalimantan Timur	Nusa Tenggara Timur

(出所) Hartono and Irawan (2011) Decentralization Policy and Equality: A Theil Analysis of Indonesian Income Inequality, *European Journal of Economics, Finance and Administrative Sciences*, Issue 29, p.45

都市と地方との人や物資の流れをよりスムーズに行い、地方・農村の開発を進め、地域間の格差を是正していくことは長年の課題となっている。前述の図表 46 では、インドネシアにおける地域別のインフラへのアクセスの状況が示され、ここからジャワ州やバリ州での電力の供給は90%以上であるが、中央スラウェシ州の64%などジャワやバリ以外の地域でインフラの状況に改善の余地があることがわかる。

安全な飲料水へのアクセスができる世帯の数は、1993年の37.73%から2009年には47.71%となり、改善傾向にあるが、未だに地域格差も大きい。ジョグ・ジャカルタ州、バリ州、スラウェシ州などでは割合が高いが、バンテン州、アチェ州、ブンクル州については最も低い割合になっている (図表 49 参照)。

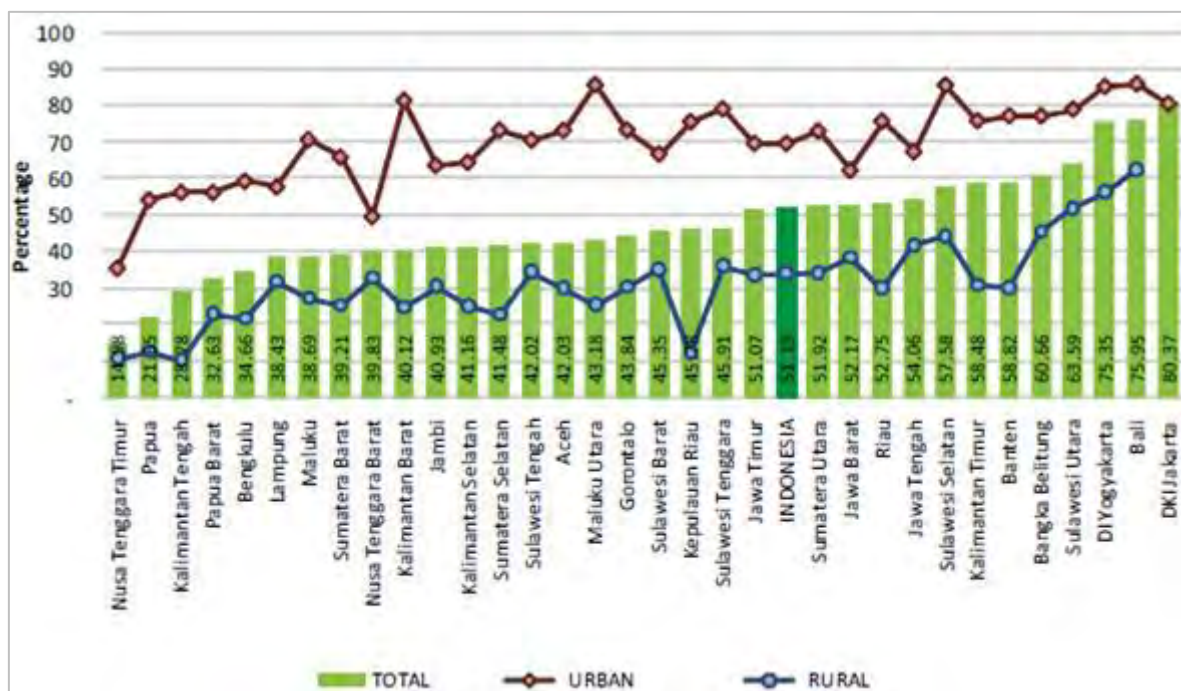
図表 49 安全な飲料水へのアクセスがある世帯の割合 (州別：2009年)



(出所) Ministry of National Development Planning / National Development Planning Agency (BAPPENAS) (2010a) Report of the Achievement of the Millennium Development Goals Indonesia 2010, p.110

衛生設備へのアクセスに関しては、ジャカルタが 80.37%と最も高くなっているのに対し、ヌサ・トゥンガラ州、ティモール州では 14.98%となっており、大きな格差がある⁷⁷。

図表 50 衛生設備へのアクセスがある世帯の割合（州別：2009 年）



(出所) Ministry of National Development Planning / National Development Planning Agency (BAPPENAS) (2010a) Report of the Achievement of the Millennium Development Goals Indonesia 2010, p.111

3. 域内（地球的）課題解決への貢献

インドネシアは自然や天然資源が豊富で、就労人口の半数以上が農業に従事し、特に貧困者の多くが天候依存の農業を営んでいる。そのため、気候変動への取組みは、貧困削減にも大きな影響を与える。

米を主食とし、多くの農民が天水農業を営むインドネシアでは、気候変動による雨季の遅れにより米の収穫量の減少を経験している⁷⁸。その他、台風や自然災害、気候変動による海拔上昇、それに伴う世帯の強制移住、生物多様性の損失、大気汚染、森林減少といった地球的課題があり、それらへの取組みが必要とされている⁷⁹。

⁷⁷ Ministry of National Development Planning / National Development Planning Agency (BAPPENAS) (2010a) Report of the Achievement of the Millennium Development Goals Indonesia 2010, p.109

⁷⁸ World Bank (2009) Policy Research Working Paper: Distributional Impact Analysis of Past Climate Variability in Rural Indonesia, p.5. このほか、World Bank(2011) Policy Research Working Paper: Too Little Too Late: Welfare Impacts of Rainfall Shocks in Rural Indonesia でも、米農家が気候変動の影響を受けてネガティブな経済影響を受けたことを明らかにしている。

⁷⁹ Müller (2008) "Indonesia –stuck between a rock and a hard place", Climate Change and Poverty A challenge for a fair world policy, WELT-SHITEN , p.15
http://www.pik-potsdam.de/services/infothek/Books_brochures/climate-change-and-poverty (2012年3月)

気候変動による自然災害によって、貧困率にどの程度の影響があるかを推計した研究によると、インドネシアの場合、農業分野で 29.5%、農村部の労働者で 23.9%、貧困率が上昇するとの予測が示されている⁸⁰。

図表 51 気候変動による自然災害が発生した場合の貧困率の変化（推計）

Table 2. Per cent change in poverty due to once-in-30-year-climate extreme by stratum and country.

	Socio-economic strata						
	Agricultural	Non-agricultural	Urban labor	Rural labor	Transfer	Urban diverse	Rural diverse
Bangladesh	32.1	37.8	30.7	11.1	0.8	29.5	17.2
Brazil	0.1	4.1	5.5	6.2	1.0	9.6	7.0
Chile	7.7	13.8	12.7	9.5	14.7	12.6	14.9
Colombia	0.1	0.4	1.0	1.0	0.6	0.6	0.5
Indonesia	29.5	12.1	19.2	23.9	5.9	17.9	19.0
Mexico	52.2	36.7	95.4	52.1	61.8	37.4	43.2
Mozambique	4.3	15.3	16.2	12.4	7.2	26.6	16.0
Malawi	15.8	9.0	110.5	91.0	11.1	30.8	23.0
Peru	2.4	1.9	3.6	2.6	0.5	1.5	1.4
Philippines	-17.7	10.2	32.3	25.9	8.5	6.0	3.8
Thailand	4.9	5.8	7.1	5.8	6.4	5.6	5.8
Tanzania	7.2	11.0	14.9	5.3	6.6	21.3	11.9
Uganda	-0.1	1.6	16.4	2.9	0.1	1.0	0.6
Venezuela	4.0	5.1	12.1	10.1	0.0	7.2	6.6
Vietnam	5.1	7.0	0.0	0.0	3.9	6.3	6.4
Zambia	0.0	17.7	102.0	32.5	10.9	41.1	10.6
Average	9.2	11.8	30.0	18.3	8.8	16.0	11.7

(出所) Ahmed, Diffenbaugh and Hertel (2009) Climate volatility deepens poverty vulnerability in developing countries, *Environmental Research Letters*, p.6

こうした観点から、インドネシア政府は 2008 年には気候変動政策の国内外の調整機能を充実させるため、国家気候変動協議会（NCCC: National Council for Climate Change）を設立し、長期国家開発計画（2005-2025 年）や中期国家開発計画（2004-2009、2010-2014 年）においても、自然環境保全と持続可能な開発のあり方についての項目を設定している⁸¹。

また、国土の多くを熱帯雨林が覆う豊かな森林資源を保全し、森林減少・劣化を防止するための温室効果ガスの排出削減（REDD）への取組みも導入され始めている。

23 日アクセス）及び Case, Ardiansyah and Spector (2007) Climate Change in Indonesia-Implications for Humans and Nature-, WWF <http://www.worldwildlife.org/climate/Publications/WWFBinaryitem7664.pdf> (2012 年 3 月 23 日アクセス) 及び School of Business, Economics and Law, Department of Economics, University of Gothenburg (2008) Indonesia Environmental and Climate Change Policy Brief, pp.3-4 <http://www.sida.se/Global/Countries%20and%20regions/Asia%20incl.%20Middle%20East/Indonesia/Environmental%20policy%20brief%20Indonesia.pdf> (2012 年 3 月 23 日アクセス)

⁸⁰ Ahmed, Diffenbaugh and Hertel (2009) Climate volatility deepens poverty vulnerability in developing countries, *Environmental Research Letters*, p.6

http://www.stanford.edu/~omramom/Ahmed_ERL_09.pdf (2012 年 3 月 23 日アクセス)

⁸¹ Ministry of National Development Planning / National Development Planning Agency (BAPPENAS) (2010a) Report of the Achievement of the Millennium Development Goals Indonesia 2010, p.98

添付 1. 参考文献リスト

ADB (2006) *From Poverty to Prosperity: A Country Poverty Analysis for Indonesia*

ADB (2010) *Review of Government's Poverty Reduction Strategies, Policies, and Programs in Indonesia*

<http://www.smeru.or.id/report/research/povertyreductionreview/povertyreductionreview.pdf>

Ahmed, Diffenbaugh and Hertel (2009) *Climate volatility deepens poverty vulnerability in developing countries*, *Environmental Research Letters*

http://www.stanford.edu/~omramom/Ahmed_ERL_09.pdf

BPS (2010) *Statistical Yearbook of Indonesia*

BPS (2011) *BPS Strategic Data*

Case, Ardiansyah and Spector (2007) "Climate Change in Indonesia-Implications for Humans and Nature-", WWF

<http://www.worldwildlife.org/climate/Publications/WWFBinaryitem7664.pdf>

福岡藤乃 (2010) 「インドネシアにおける医療保障制度とその課題」『海外社会保障研究』No.170,p.73

<http://www.ipss.go.jp/syoushika/bunken/data/pdf/19249307.pdf>

Government of the Republic of Indonesia (2005) *Proposal: National Decentralised Support Programme for Food Security (NPFS: 2006-2015 covering Phase I: 2006-2009)*

Hartono and Irawan (2011) *Decentralization Policy and Equality: A Theil Analysis of Indonesian Income Inequality*, *European Journal of Economics, Finance and Administrative Sciences*, Issue 29

IOM (2010) *Labour Migration from Indonesia: An overview of Indonesian Migration to Selected Destinations in Asia and the Middle East*

JETRO (2011) 「BOP ビジネス潜在ニーズ調査報告書インドネシア：教育・職業訓練分野」

http://www.jetro.go.jp/jfile/report/07000761/idn_edu_work.pdf

Ministry of National Development Planning / National Development Planning Agency (BAPPENAS) (2010a) Report on the Achievement of the Millennium Development Goals Indonesia 2010

Ministry of National Development Planning / National Development Planning Agency (BAPPENAS) (2010b) Appendices: Regulation of the President of the Republic of Indonesia: Number 5 of 2010 Regarding the National Medium-Term Development Plan [RPJMN] 2010-2014

Müller (2008) “Indonesia –stuck between a rock and a hard place”, Climate Change and Poverty A challenge for a fair world policy, *WELT-SHITEN*
http://www.pik-potsdam.de/services/infothek/Books_brochures/climate-change-and-poverty

OECD (2010) Economic Importance of Agriculture for Sustainable Development and Poverty Reduction: Findings from a Case Study of Indonesia

School of Business, Economics and Law, Department of Economics. University of Gothenburg (2008) *Indonesia Environmental and Climate Change Policy Brief*
<http://www.sida.se/Global/Countries%20and%20regions/Asia%20incl.%20Middle%20East/Indonesia/Environmental%20policy%20brief%20Indonesia.pdf>

UNDP (2004) Indonesia Human Development Report: The Economics of Democracy: Financing Human Development in Indonesia

WFP (2011) Monthly Price and Food Security Update [Indonesia: August 2011]

World Bank (2006) Indonesia: Making the New Indonesia: Work for the Poor

World Bank (2006) Migration, Remittance, and Female Migrant Workers,
http://siteresources.worldbank.org/INTINDONESIA/Resources/fact_sheet-migrant_workers_en_jan06.pdf

World Bank (2009) Policy Research Working Paper: *Distributional Impact Analysis of Past Climate Variability in Rural Indonesia*

World Bank (2011) Policy Research Working Paper: *Too Little Too Late: Welfare Impacts of Rainfall Shocks in Rural Indonesia*

World Bank Office Jakarta (2011) *Targeting the Poor and Vulnerable in Indonesia*

添付 2. 主要な情報源リスト

JICA 研究所 <https://libportal.jica.go.jp/fmi/xsl/library/public/data/shihyo-p.html>

IDE/JETRO <http://www.ide.go.jp/Japanese/Research/Region/Asia/Radar/20080605.html>

インドネシア国官庁

インドネシア政府 <http://www.indonesia.go.id/en/>

財務省 <http://www.depkeu.go.id/Eng/?menu=english>

中央銀行 <http://www.bi.go.id/web/en>

中央統計局 <http://www.bps.go.id/>

国家開発計画省 <http://www.bappenas.go.id/>

国際機関

国連開発グループ 国別チーム インドネシア

<http://www.undg.org/unct.cfm?module=CoordinationProfile&page=Country&CountryID=INS>

世界銀行 (WB) インドネシア国 <http://www.worldbank.org/en/country/indonesia>

国連開発計画 (UNDP) インドネシア国 <http://www.undp.or.id/>

アジア開発銀行 (ADB) インドネシア国 <http://beta.adb.org/countries/indonesia/main>

国際移住機構 (IOM) インドネシア国 <http://www.iom.or.id/>

国際連合食糧農業機関 (FAO) Country Profile: Food Security Indicators: Indonesia

http://www.fao.org/fileadmin/templates/ess/documents/food_security_statistics/country_profiles/eng/Indonesia_E.pdf

国際連合人道問題調整事務所 (OCHA)

http://reliefweb.int/sites/reliefweb.int/files/resources/map_623.pdf

貧困データ

世界銀行データ <http://data.worldbank.org/country/indonesia>

国連公式 MDG データ インドネシア国 <http://mdgs.un.org/unsd/mdg/Data.aspx>

UNDP 人間開発指標 インドネシア国

<http://hdrstats.undp.org/en/countries/profiles/IDN.html>